

第4章 高齡者

問1 あなた（封書の宛名の方）の性別などについてお聞きします。

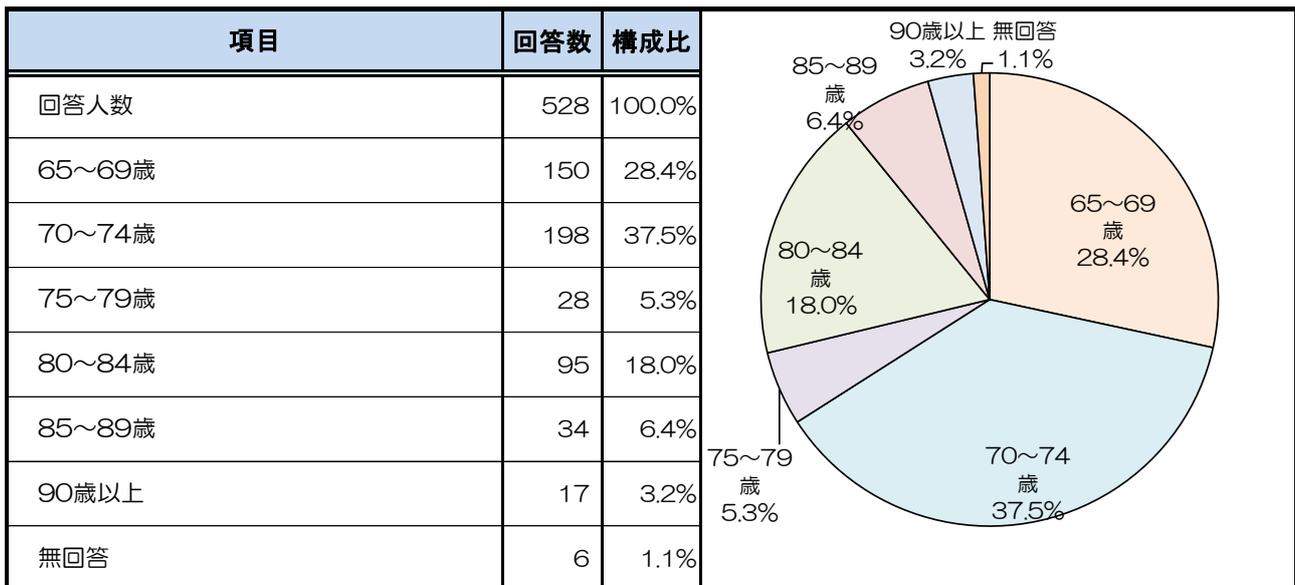
(1) 対象（封書の宛名）の方の性別

性別については、「女」が49.6%、「男」が49.4%となっている。



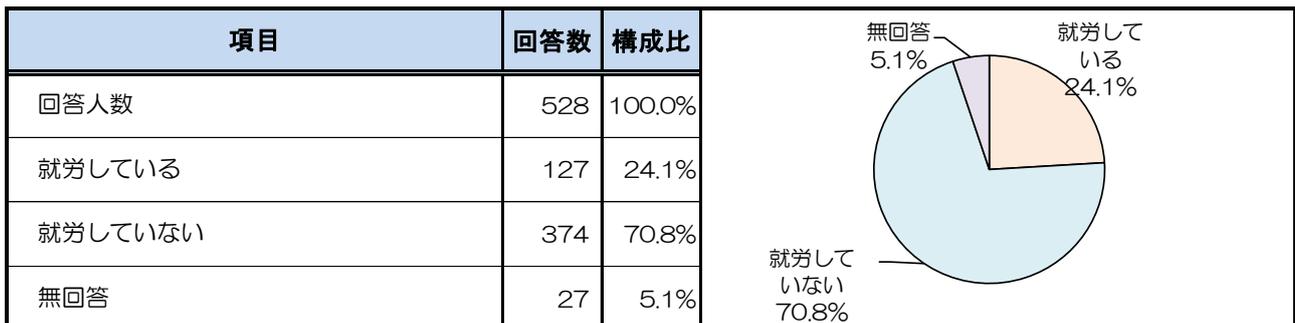
(2) 対象（封書の宛名）の方の年齢（平成28年7月1日現在）

年齢については、「70～74歳」が37.5%と最も高く、次いで、「65～69歳」の28.4%、「80～84歳」の18.0%の順となっている。



(3) 対象（封書の宛名）の方の就労状況（平成28年7月1日現在）

就労状況については、「就労していない」が70.8%、「就労している」が24.1%となっている。



問3 あなたは、鹿児島市が「セーフコミュニティ」に取り組んでいることを知っていますか。
(1つに○)

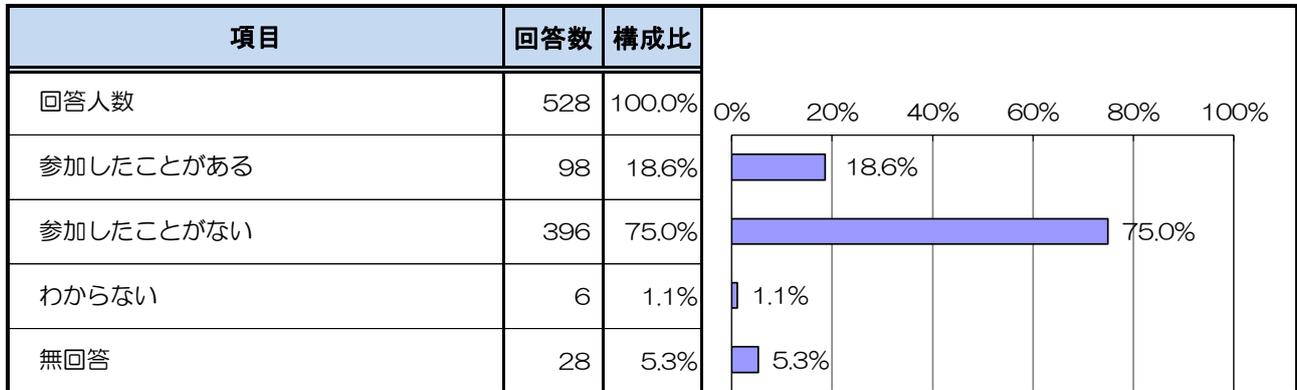
セーフコミュニティの認識度については、「知らない」が55.5%と最も高く、次いで、「聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない」の34.3%、「内容も含めて知っている」の7.2%の順となっている。

項目	回答数	構成比
回答人数	528	100.0%
内容も含めて知っている	38	7.2%
聞いた（新聞やテレビ、パンフレットなどで見た）ことはあるが、内容は知らない	181	34.3%
知らない	293	55.5%
無回答	16	3.0%

【高齢者】

問4 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（1つに○）

交通安全教室等に参加したかについては、「参加したことがない」が75.0%、「参加したことがある」が18.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「参加したことがある」の割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
参加したことがある	98	18.6%	55	21.1%	43	16.4%	0	0.0%
参加したことがない	396	75.0%	189	72.4%	203	77.5%	4	80.0%
わからない	6	1.1%	2	0.8%	4	1.5%	0	0.0%
無回答	28	5.3%	15	5.7%	12	4.6%	1	20.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

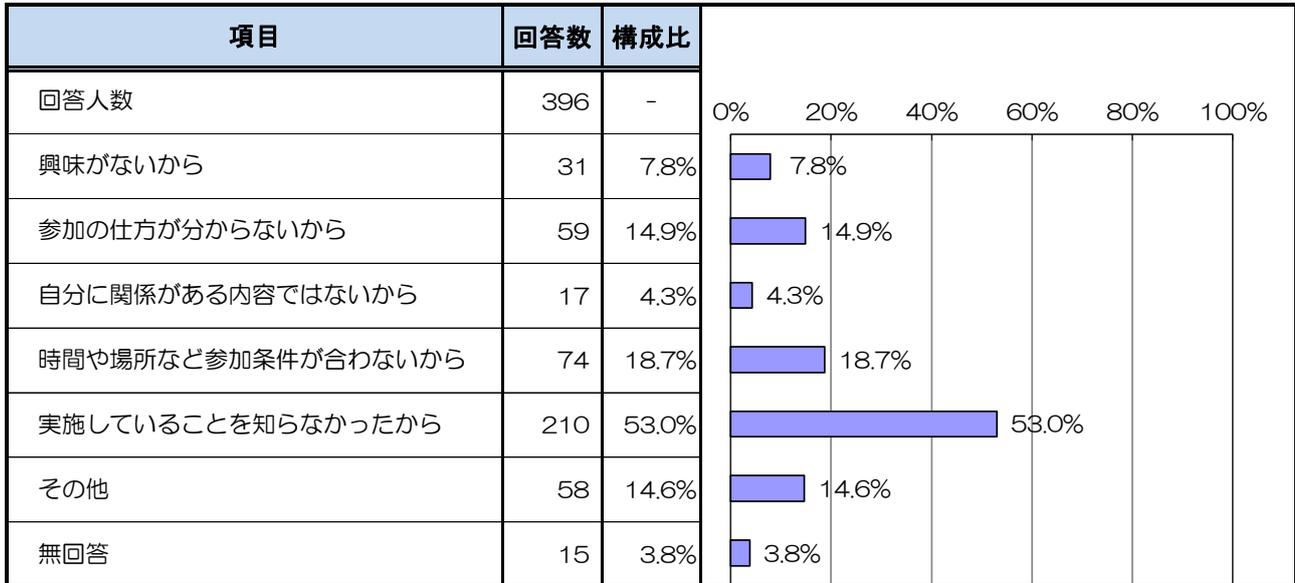
項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
参加したことがある	8	17.8%	6	30.0%	2	8.0%	0	-
参加したことがない	36	80.0%	14	70.0%	22	88.0%	0	-
わからない	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

※問4で『2. 参加したことがない』とご回答された方にお聞きします。

問4-1 あなたが、交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室等に参加したことがない理由については、「実施していることを知らなかったから」が53.0%と最も高く、次いで、「時間や場所など参加条件が合わないから」の18.7%、「参加の仕方が分からないから」の14.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	396	-	189	-	203	-	4	-
興味がないから	31	7.8%	16	8.5%	15	7.4%	0	0.0%
参加の仕方が分からないから	59	14.9%	26	13.8%	33	16.3%	0	0.0%
自分に関係がある内容ではないから	17	4.3%	11	5.8%	6	3.0%	0	0.0%
時間や場所など参加条件が合わないから	74	18.7%	33	17.5%	40	19.7%	1	25.0%
実施していることを知らなかったから	210	53.0%	96	50.8%	111	54.7%	3	75.0%
その他	58	14.6%	27	14.3%	31	15.3%	0	0.0%
無回答	15	3.8%	4	2.1%	11	5.4%	0	0.0%

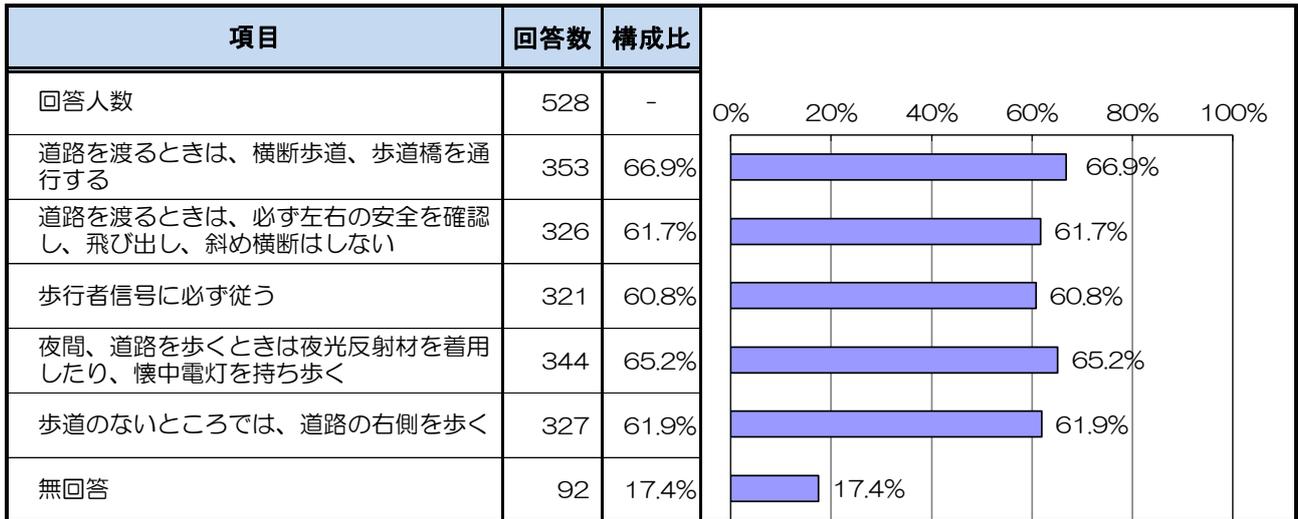
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	36	-	14	-	22	-	0	-
興味がなから	3	8.3%	0	0.0%	3	13.6%	0	-
参加の仕方が分からないから	5	13.9%	2	14.3%	3	13.6%	0	-
自分に関係がある内容ではないから	2	5.6%	1	7.1%	1	4.5%	0	-
時間や場所など参加条件が合わないから	4	11.1%	0	0.0%	4	18.2%	0	-
実施していることを知らなかったから	20	55.6%	9	64.3%	11	50.0%	0	-
その他	5	13.9%	2	14.3%	3	13.6%	0	-
無回答	2	5.6%	1	7.1%	1	4.5%	0	-

問5 あなたは、次の歩行者に関する交通ルール・マナーを知っていますか、また、実際に守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する」が66.9%と最も高く、次いで、「夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く」の65.2%、「歩道のないところでは、道路の右側を歩く」の61.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、すべての回答項目において、男性の回答割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	353	66.9%	177	67.8%	172	65.6%	4	80.0%
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	326	61.7%	167	64.0%	157	59.9%	2	40.0%
歩行者信号に必ず従う	321	60.8%	161	61.7%	158	60.3%	2	40.0%
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	344	65.2%	177	67.8%	163	62.2%	4	80.0%
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	327	61.9%	174	66.7%	150	57.3%	3	60.0%
無回答	92	17.4%	41	15.7%	50	19.1%	1	20.0%

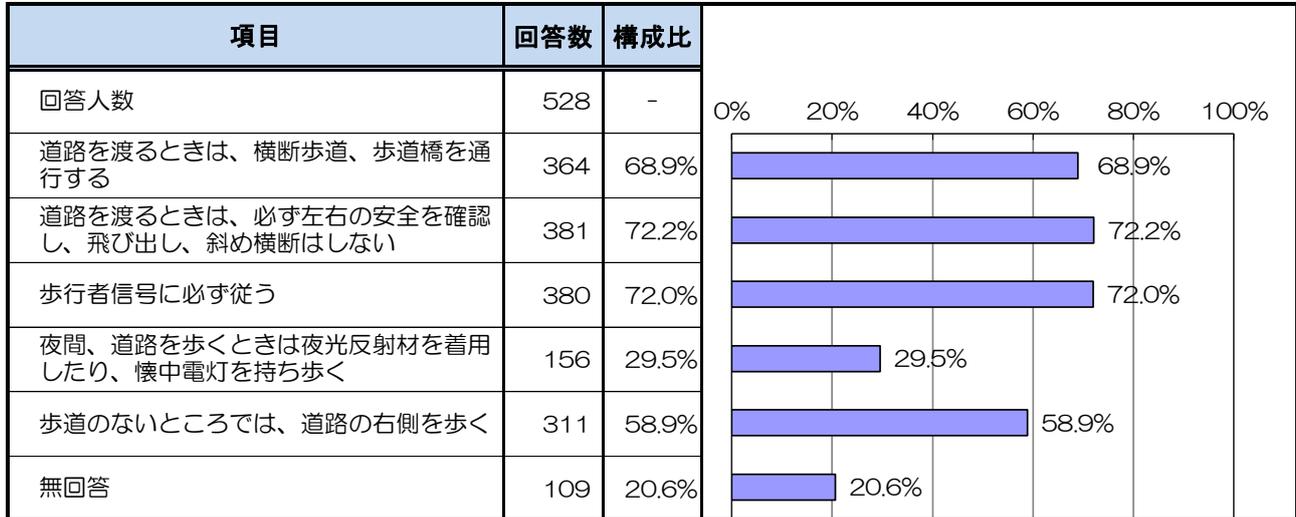
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	-	20	-	25	-	0	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	29	64.4%	11	55.0%	18	72.0%	0	-
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	27	60.0%	10	50.0%	17	68.0%	0	-
歩行者信号に必ず従う	27	60.0%	10	50.0%	17	68.0%	0	-
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	28	62.2%	12	60.0%	16	64.0%	0	-
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	28	62.2%	11	55.0%	17	68.0%	0	-
無回答	13	28.9%	6	30.0%	7	28.0%	0	-

【高齢者】

イ 守っている

「道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない」が72.2%と最も高く、次いで、「歩行者信号に必ず従う」の72.0%、「道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する」の68.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	364	68.9%	181	69.3%	180	68.7%	3	60.0%
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	381	72.2%	188	72.0%	188	71.8%	5	100.0%
歩行者信号に必ず従う	380	72.0%	185	70.9%	190	72.5%	5	100.0%
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	156	29.5%	84	32.2%	70	26.7%	2	40.0%
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	311	58.9%	149	57.1%	158	60.3%	4	80.0%
無回答	109	20.6%	56	21.5%	53	20.2%	0	0.0%

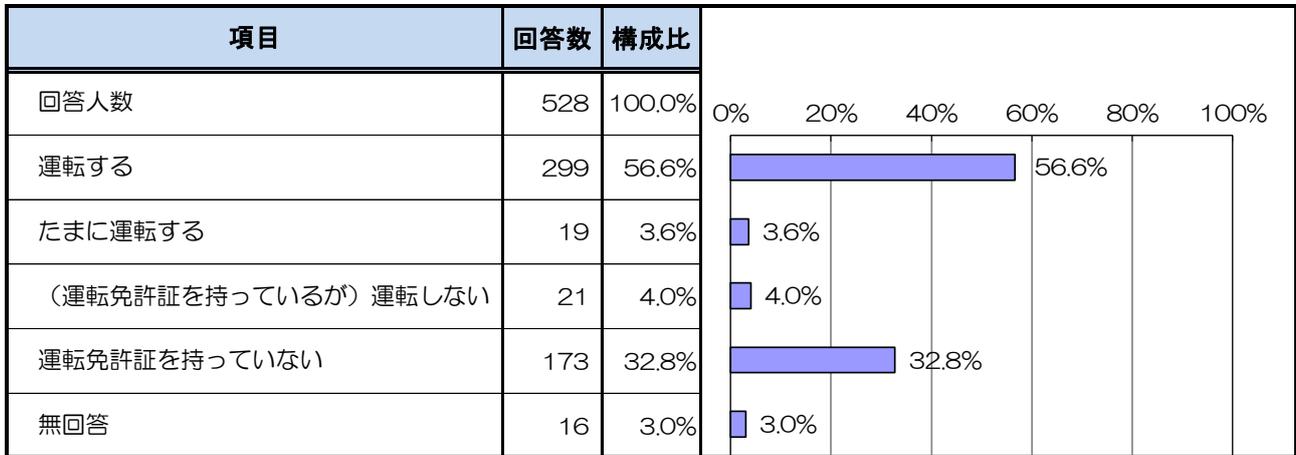
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	-	20	-	25	-	0	-
道路を渡るときは、横断歩道、歩道橋を通行する	29	64.4%	16	80.0%	13	52.0%	0	-
道路を渡るときは、必ず左右の安全を確認し、飛び出し、斜め横断はしない	27	60.0%	14	70.0%	13	52.0%	0	-
歩行者信号に必ず従う	29	64.4%	16	80.0%	13	52.0%	0	-
夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用したり、懐中電灯を持ち歩く	15	33.3%	9	45.0%	6	24.0%	0	-
歩道のないところでは、道路の右側を歩く	24	53.3%	13	65.0%	11	44.0%	0	-
無回答	14	31.1%	3	15.0%	11	44.0%	0	-

【高齢者】

問6 あなたは、自動車を運転しますか。(1つに○)

自動車の運転については、「運転する」が56.6%と最も高く、次いで、「運転免許証を持っていない」の32.8%、「(運転免許証を持っているが)運転しない」の4.0%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性では「運転する」、女性では「運転免許証を持っていない」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
運転する	299	56.6%	201	77.0%	95	36.3%	3	60.0%
たまたに運転する	19	3.6%	13	5.0%	6	2.3%	0	0.0%
(運転免許証を持っているが)運転しない	21	4.0%	7	2.7%	14	5.3%	0	0.0%
運転免許証を持っていない	173	32.8%	39	14.9%	132	50.4%	2	40.0%
無回答	16	3.0%	1	0.4%	15	5.7%	0	0.0%

【モデル地区 (吉野小校区)】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
運転する	21	46.7%	15	75.0%	6	24.0%	0	-
たまたに運転する	1	2.2%	1	5.0%	0	0.0%	0	-
(運転免許証を持っているが)運転しない	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-
運転免許証を持っていない	21	46.7%	4	20.0%	17	68.0%	0	-
無回答	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-

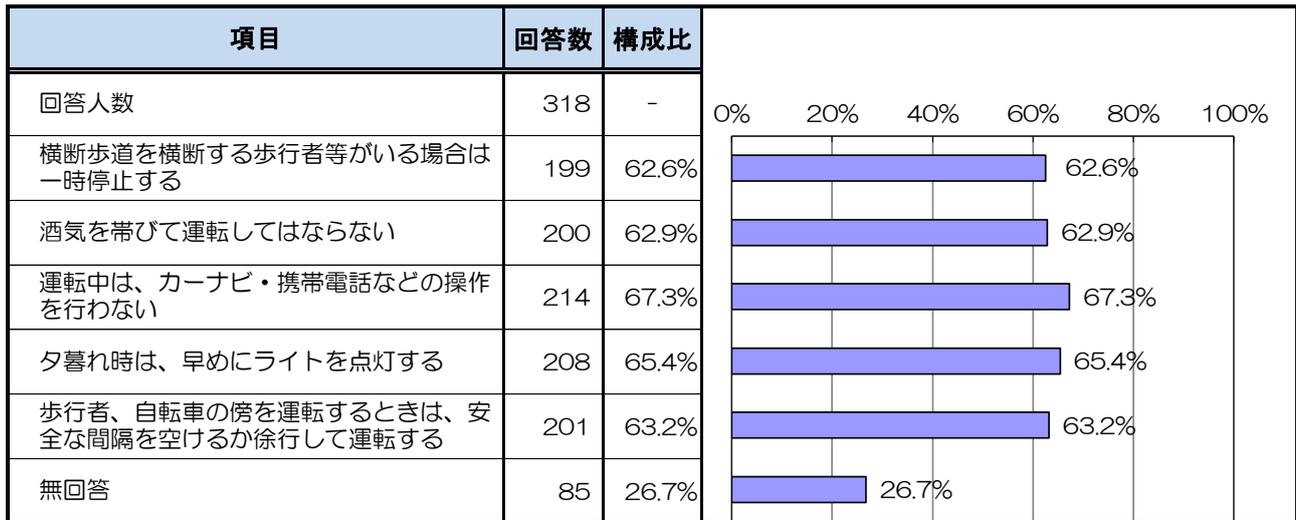
【高齢者】

※問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』とご回答された方にお聞きします。

問6-1 あなたは、次の自動車の運転に関する交通ルール・マナーを知っていますか。また、実際に守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

ア 知っている

「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない」が67.3%と最も高く、次いで、「夕暮れ時は、早めにライトを点灯する」の65.4%、「歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する」の63.2%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	318	-	214	-	101	-	3	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	199	62.6%	134	62.6%	63	62.4%	2	66.7%
酒気を帯びて運転してはならない	200	62.9%	135	63.1%	63	62.4%	2	66.7%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	214	67.3%	144	67.3%	68	67.3%	2	66.7%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	208	65.4%	144	67.3%	62	61.4%	2	66.7%
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	201	63.2%	136	63.6%	63	62.4%	2	66.7%
無回答	85	26.7%	54	25.2%	30	29.7%	1	33.3%

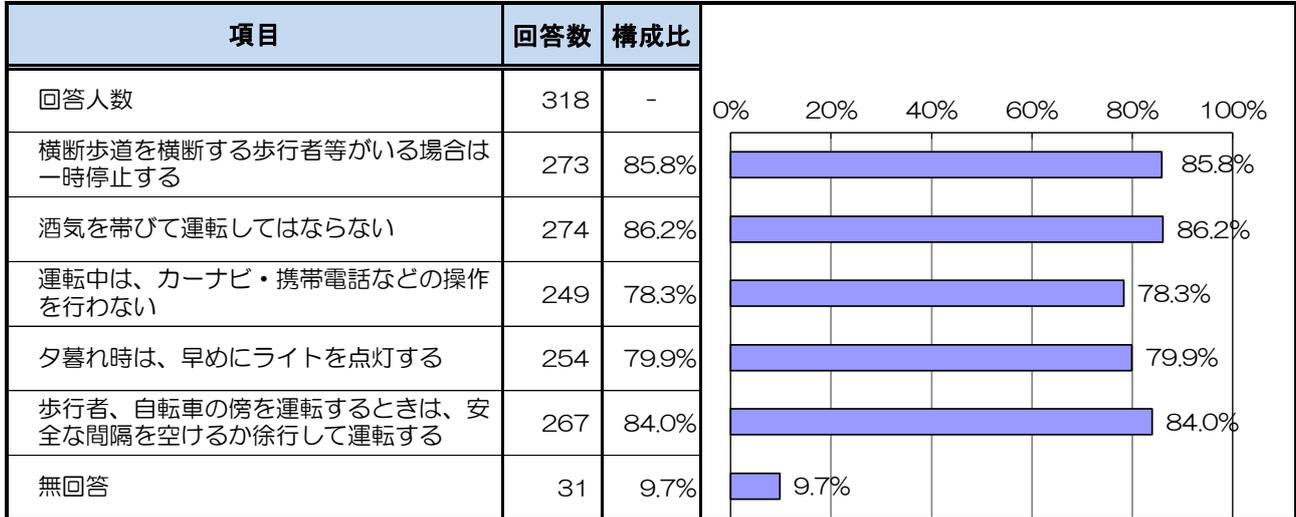
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	22	-	16	-	6	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	12	54.5%	8	50.0%	4	66.7%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	12	54.5%	8	50.0%	4	66.7%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	12	54.5%	8	50.0%	4	66.7%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	13	59.1%	9	56.3%	4	66.7%	0	-
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	13	59.1%	9	56.3%	4	66.7%	0	-
無回答	9	40.9%	7	43.8%	2	33.3%	0	-

【高齢者】

イ 守っている

「酒気を帯びて運転してはならない」が86.2%と最も高く、次いで、「横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する」の85.8%、「歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する」の84.0%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、すべての回答項目において、女性の遵守度が男性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	318	-	214	-	101	-	3	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	273	85.8%	181	84.6%	89	88.1%	3	100.0%
酒気を帯びて運転してはならない	274	86.2%	181	84.6%	90	89.1%	3	100.0%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	249	78.3%	165	77.1%	81	80.2%	3	100.0%
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	254	79.9%	165	77.1%	86	85.1%	3	100.0%
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	267	84.0%	176	82.2%	88	87.1%	3	100.0%
無回答	31	9.7%	24	11.2%	7	6.9%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	22	-	16	-	6	-	0	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止する	19	86.4%	14	87.5%	5	83.3%	0	-
酒気を帯びて運転してはならない	19	86.4%	14	87.5%	5	83.3%	0	-
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない	18	81.8%	13	81.3%	5	83.3%	0	-
夕暮れ時は、早めにライトを点灯する	16	72.7%	11	68.8%	5	83.3%	0	-
歩行者、自転車の傍を運転するときは、安全な間隔を空けるか徐行して運転する	17	77.3%	12	75.0%	5	83.3%	0	-
無回答	3	13.6%	2	12.5%	1	16.7%	0	-

【高齢者】

※問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』『3. (運転免許証を持っているが) 運転しない』とご回答された方にお聞きします。

問6-2 あなたは、「高齢者運転免許自主返納支援制度」を知っていますか。(1つに○)

『高齢者運転免許自主返納支援制度』の認識度については、「知っている」が85.8%、「知らない」が5.3%となっている。



【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異は見られない。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	339	100.0%	221	100.0%	115	100.0%	3	100.0%	273	100.0%	63	100.0%	3	100.0%
知っている	291	85.8%	186	84.2%	103	89.6%	2	66.7%	234	85.7%	55	87.3%	2	66.7%
知らない	18	5.3%	12	5.4%	6	5.2%	0	0.0%	16	5.9%	2	3.2%	0	0.0%
無回答	30	8.8%	23	10.4%	6	5.2%	1	33.3%	23	8.4%	6	9.5%	1	33.3%

【モデル地区（吉野小校区）】

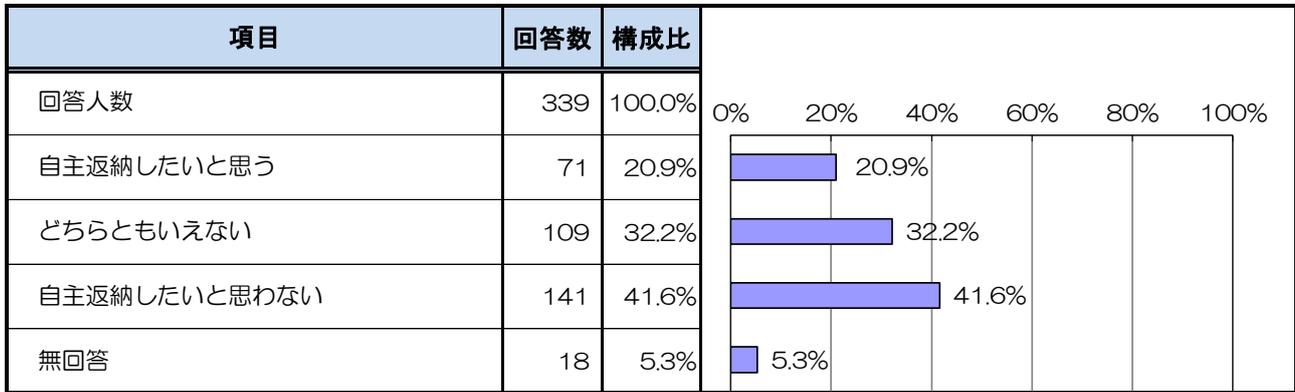
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	23	100.0%	16	100.0%	7	100.0%	0	-	17	100.0%	6	100.0%	0	-
知っている	18	78.3%	11	68.8%	7	100.0%	0	-	14	82.4%	4	66.7%	0	-
知らない	1	4.3%	1	6.3%	0	0.0%	0	-	1	5.9%	0	0.0%	0	-
無回答	4	17.4%	4	25.0%	0	0.0%	0	-	2	11.8%	2	33.3%	0	-

【高齢者】

※問6で『1. 運転する』『2. たまに運転する』『3. (運転免許証を持っているが) 運転しない』とご回答された方にお聞きします。

問6-3 あなたは、運転免許を自主返納したいと思いますか。(1つに○)

運転免許の自主返納については、「自主返納したいと思わない」が41.6%と最も高く、次いで、「どちらともいえない」の32.2%、「自主返納したいと思う」の20.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「自主返納したいと思わない」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「自主返納したいと思う」の割合が65～74歳と比較して高くなっているが、「自主返納したいと思わない」の割合も同様に75歳以上が高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	339	100.0%	221	100.0%	115	100.0%	3	100.0%	273	100.0%	63	100.0%	3	100.0%
自主返納したいと思う	71	20.9%	40	18.1%	31	27.0%	0	0.0%	54	19.8%	17	27.0%	0	0.0%
どちらともいえない	109	32.2%	60	27.1%	47	40.9%	2	66.7%	97	35.5%	10	15.9%	2	66.7%
自主返納したいと思わない	141	41.6%	110	49.8%	30	26.1%	1	33.3%	108	39.6%	32	50.8%	1	33.3%
無回答	18	5.3%	11	5.0%	7	6.1%	0	0.0%	14	5.1%	4	6.3%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

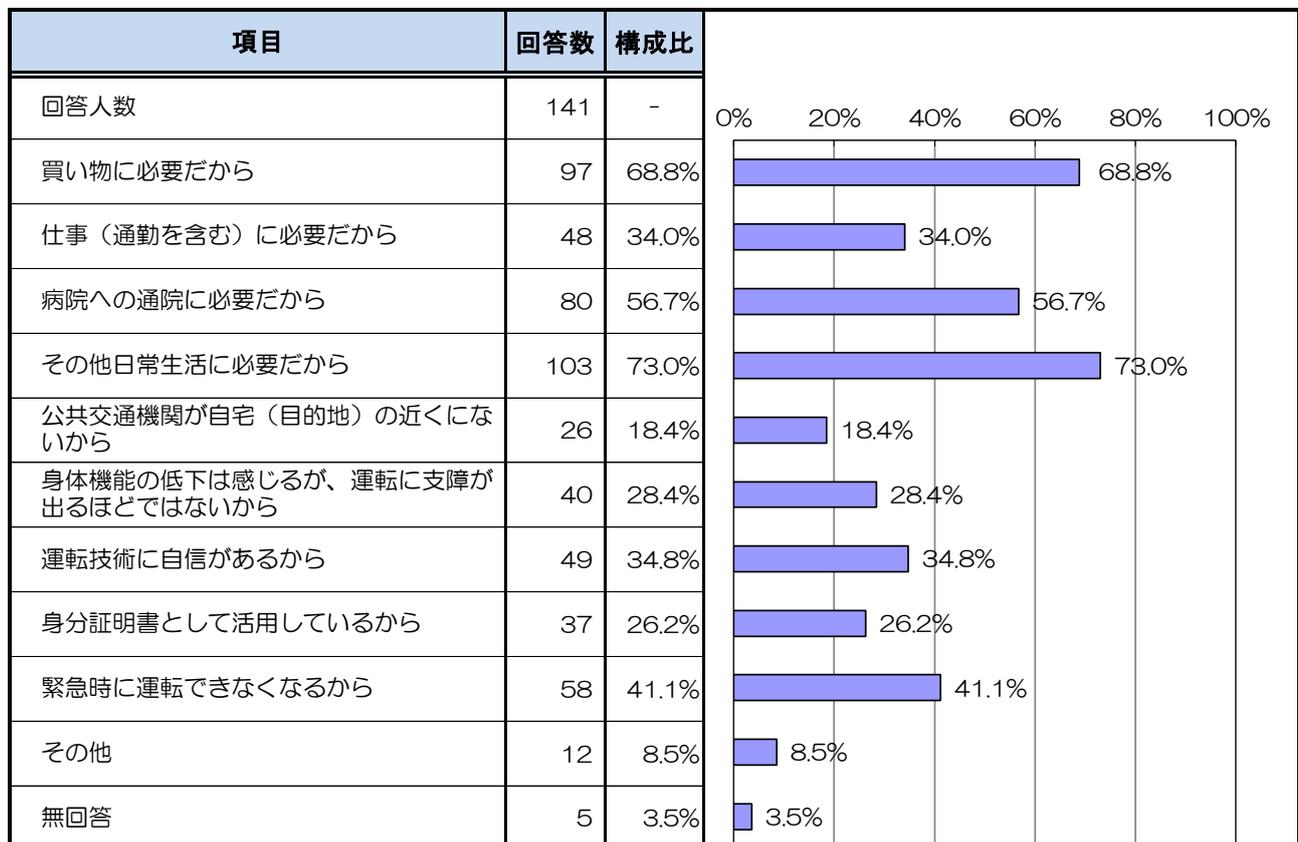
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	23	100.0%	16	100.0%	7	100.0%	0	-	17	100.0%	6	100.0%	0	-
自主返納したいと思う	3	13.0%	1	6.3%	2	28.6%	0	-	3	17.6%	0	0.0%	0	-
どちらともいえない	4	17.4%	1	6.3%	3	42.9%	0	-	3	17.6%	1	16.7%	0	-
自主返納したいと思わない	13	56.5%	12	75.0%	1	14.3%	0	-	9	52.9%	4	66.7%	0	-
無回答	3	13.0%	2	12.5%	1	14.3%	0	-	2	11.8%	1	16.7%	0	-

※問6-3で『3. 自主返納したいと思わない』とご回答された方にお聞きします。

問6-4 運転免許証の自主返納をしたいと思わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

自主返納したいと思わない理由については、「その他日常生活に必要なだから」が73.0%と最も高く、次いで、「買い物に必要なだから」の68.8%、「病院への通院に必要なだから」の56.7%の順となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男女ともに「その他日常生活に必要なだから」の割合が最も高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「買い物に必要なだから」「病院への通院に必要なだから」「身体機能の低下は感じるが、運転に支障が出るほどではないから」「運転技術に自信があるから」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	141	-	110	-	30	-	1	-	108	-	32	-	1	-
買い物に必要なだから	97	68.8%	75	68.2%	21	70.0%	1	100.0%	70	64.8%	26	81.3%	1	100.0%
仕事（通勤を含む）に必要なだから	48	34.0%	39	35.5%	9	30.0%	0	0.0%	39	36.1%	9	28.1%	0	0.0%
病院への通院に必要なだから	80	56.7%	69	62.7%	10	33.3%	1	100.0%	54	50.0%	25	78.1%	1	100.0%
その他日常生活に必要なだから	103	73.0%	81	73.6%	22	73.3%	0	0.0%	77	71.3%	26	81.3%	0	0.0%
公共交通機関が自宅（目的地）の近くにないから	26	18.4%	23	20.9%	3	10.0%	0	0.0%	22	20.4%	4	12.5%	0	0.0%
身体機能の低下は感じるが、運転に支障が出るほどではないから	40	28.4%	36	32.7%	4	13.3%	0	0.0%	26	24.1%	14	43.8%	0	0.0%
運転技術に自信があるから	49	34.8%	44	40.0%	5	16.7%	0	0.0%	33	30.6%	16	50.0%	0	0.0%
身分証明書として活用しているから	37	26.2%	30	27.3%	7	23.3%	0	0.0%	28	25.9%	9	28.1%	0	0.0%
緊急時に運転できなくなるから	58	41.1%	49	44.5%	9	30.0%	0	0.0%	46	42.6%	12	37.5%	0	0.0%
その他	12	8.5%	9	8.2%	3	10.0%	0	0.0%	10	9.3%	2	6.3%	0	0.0%
無回答	5	3.5%	5	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.6%	0	0.0%	0	0.0%

【モデル地区（吉野小校区）】

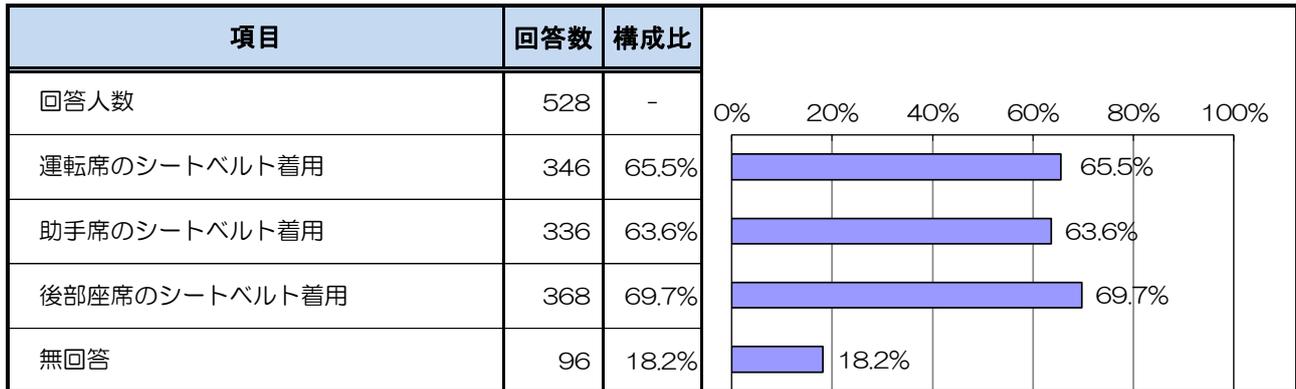
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	13	-	12	-	1	-	0	-	9	-	4	-	0	-
買い物に必要なだから	12	92.3%	11	91.7%	1	100.0%	0	-	9	100.0%	3	75.0%	0	-
仕事（通勤を含む）に必要なだから	4	30.8%	3	25.0%	1	100.0%	0	-	2	22.2%	2	50.0%	0	-
病院への通院に必要なだから	11	84.6%	10	83.3%	1	100.0%	0	-	8	88.9%	3	75.0%	0	-
その他日常生活に必要なだから	12	92.3%	11	91.7%	1	100.0%	0	-	8	88.9%	4	100.0%	0	-
公共交通機関が自宅（目的地）の近くにないから	3	23.1%	3	25.0%	0	0.0%	0	-	3	33.3%	0	0.0%	0	-
身体機能の低下は感じるが、運転に支障が出るほどではないから	6	46.2%	5	41.7%	1	100.0%	0	-	4	44.4%	2	50.0%	0	-
運転技術に自信があるから	6	46.2%	6	50.0%	0	0.0%	0	-	4	44.4%	2	50.0%	0	-
身分証明書として活用しているから	5	38.5%	5	41.7%	0	0.0%	0	-	3	33.3%	2	50.0%	0	-
緊急時に運転できなくなるから	6	46.2%	6	50.0%	0	0.0%	0	-	4	44.4%	2	50.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

問7 あなたは、自動車を運転するときに、後部座席同乗者も含め、全席でシートベルトを着用しなければならないことを知っていますか。また、実際に着用していますか。（あてはまるものすべてに○）

ア 知っている

「後部座席のシートベルト着用」が69.7%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の65.5%、「助手席のシートベルト着用」の63.6%の順となっている。



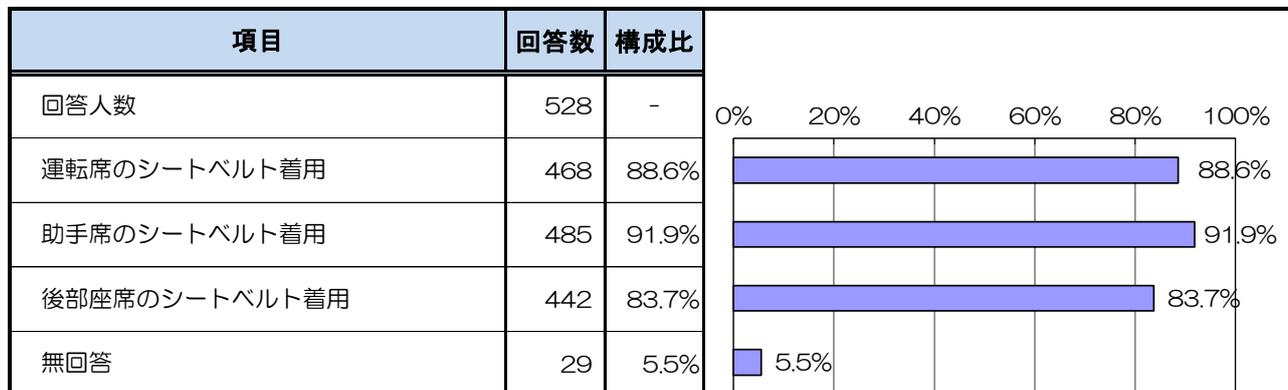
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	45	-
運転席のシートベルト着用	33	73.3%
助手席のシートベルト着用	32	71.1%
後部座席のシートベルト着用	33	73.3%
無回答	6	13.3%

【参考】

問7において、「イ. 着用している」のみへの回答が一定数見られたため、「ア. 知っている」「イ. 着用している」のいずれかに回答した場合を「知っている」と仮定した場合の集計結果を以下に示す。

「助手席のシートベルト着用」が91.9%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の88.6%、「後部座席のシートベルト着用」の83.7%の順となっている。



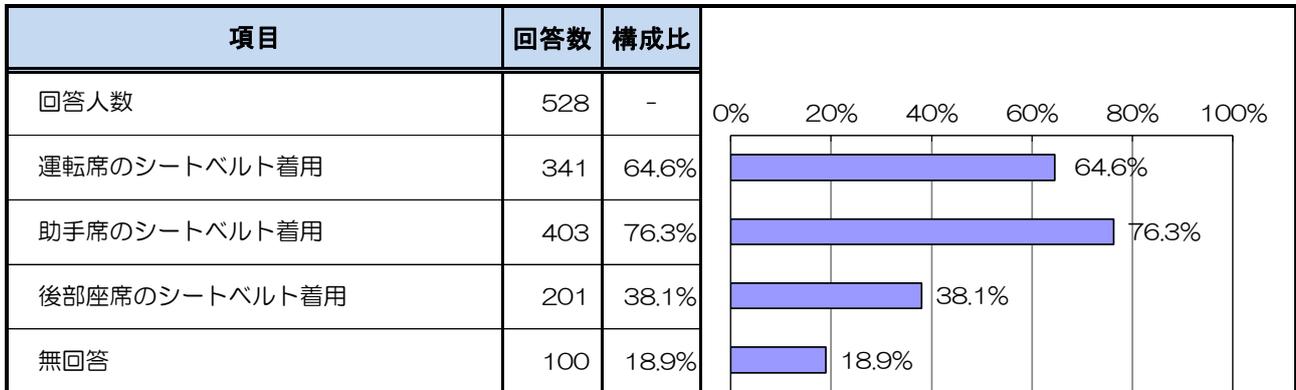
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	45	-
運転席のシートベルト着用	41	91.1%
助手席のシートベルト着用	41	91.1%
後部座席のシートベルト着用	38	84.4%
無回答	2	4.4%

【高齢者】

イ 着用している

「助手席のシートベルト着用」が76.3%と最も高く、次いで、「運転席のシートベルト着用」の64.6%、「後部座席のシートベルト着用」の38.1%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「運転席のシートベルト着用」の割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-
運転席のシートベルト着用	341	64.6%	203	77.8%	135	51.5%	3	60.0%
助手席のシートベルト着用	403	76.3%	208	79.7%	191	72.9%	4	80.0%
後部座席のシートベルト着用	201	38.1%	96	36.8%	102	38.9%	3	60.0%
無回答	100	18.9%	43	16.5%	56	21.4%	1	20.0%

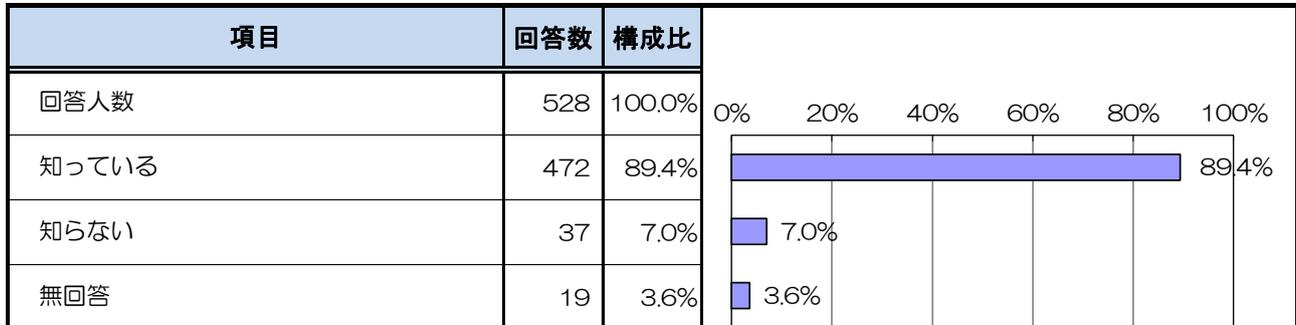
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	-	20	-	25	-	0	-
運転席のシートベルト着用	22	48.9%	14	70.0%	8	32.0%	0	-
助手席のシートベルト着用	32	71.1%	15	75.0%	17	68.0%	0	-
後部座席のシートベルト着用	18	40.0%	7	35.0%	11	44.0%	0	-
無回答	9	20.0%	3	15.0%	6	24.0%	0	-

【高齢者】

問8 あなたは、夜間や薄暗いときに外出する際、夜光反射材がついたものを活用することの重要性を知っていますか。(1つに○)

夜光反射材の重要性の認識度については、「知っている」が89.4%、「知らない」が7.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「知っている」の割合が女性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
知っている	472	89.4%	241	92.3%	227	86.6%	4	80.0%
知らない	37	7.0%	17	6.5%	19	7.3%	1	20.0%
無回答	19	3.6%	3	1.1%	16	6.1%	0	0.0%

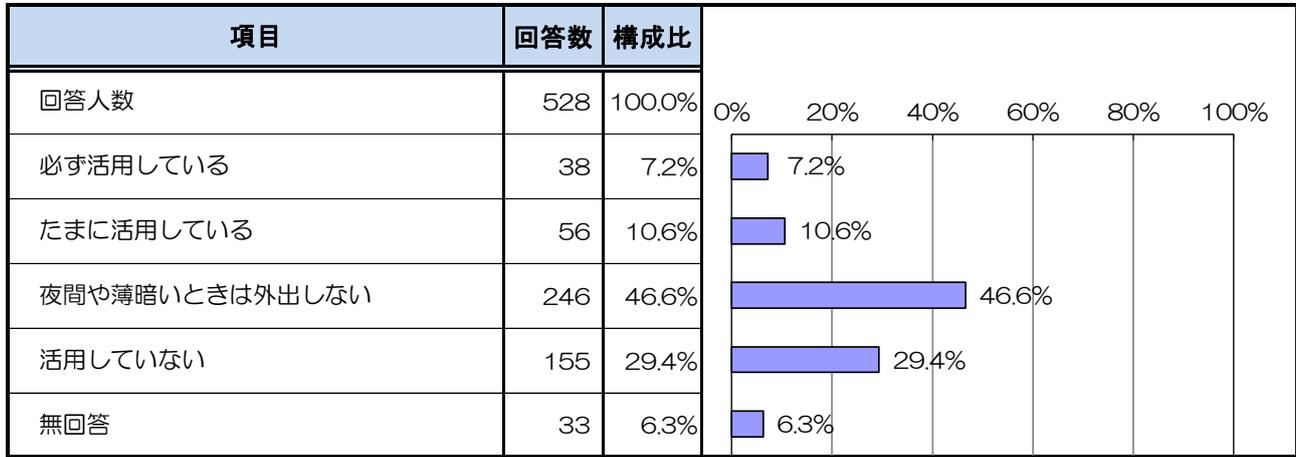
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
知っている	44	97.8%	20	100.0%	24	96.0%	0	-
知らない	1	2.2%	0	0.0%	1	4.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

問9 あなたは、夜間や薄暗いときに外出する際、夜光反射材がついたものを活用していますか。
(1つに○)

夜光反射材の重要性の活用状況については、「夜間や薄暗いときは外出しない」が46.6%と最も高く、次いで、「活用していない」の29.4%、「たまに活用している」の10.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「活用していない」の割合、女性の「夜間や薄暗いときは外出しない」の割合がそれぞれ異性と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%
必ず活用している	38	7.2%	23	8.8%	14	5.3%	1	20.0%
たまに活用している	56	10.6%	29	11.1%	26	9.9%	1	20.0%
夜間や薄暗いときは外出しない	246	46.6%	102	39.1%	142	54.2%	2	40.0%
活用していない	155	29.4%	94	36.0%	60	22.9%	1	20.0%
無回答	33	6.3%	13	5.0%	20	7.6%	0	0.0%

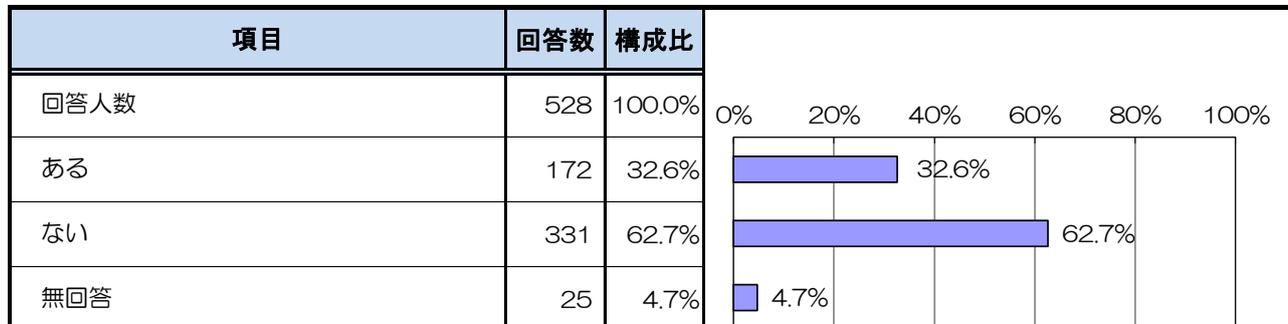
【モデル地区（吉野小校区）】

項目	回答人数		性別					
			男性		女性		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	45	100.0%	20	100.0%	25	100.0%	0	-
必ず活用している	4	8.9%	4	20.0%	0	0.0%	0	-
たまに活用している	5	11.1%	2	10.0%	3	12.0%	0	-
夜間や薄暗いときは外出しない	28	62.2%	9	45.0%	19	76.0%	0	-
活用していない	8	17.8%	5	25.0%	3	12.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

問 10 この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）に転んだこと、または、転びそうになりヒヤリとしたことがありますか。（1つに○）

転んだ（転びそうになった）経験の有無については、「ない」が62.7%、「ある」が32.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「ある」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「ある」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
ある	172	32.6%	72	27.6%	99	37.8%	1	20.0%	84	24.1%	87	50.0%	1	16.7%
ない	331	62.7%	184	70.5%	144	55.0%	3	60.0%	247	71.0%	80	46.0%	4	66.7%
無回答	25	4.7%	5	1.9%	19	7.3%	1	20.0%	17	4.9%	7	4.0%	1	16.7%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	21	100.0%	23	100.0%	0	-	29	100.0%	15	100.0%	0	-
ある	13	29.5%	6	28.6%	7	30.4%	0	-	7	24.1%	6	40.0%	0	-
ない	29	65.9%	15	71.4%	14	60.9%	0	-	20	69.0%	9	60.0%	0	-
無回答	2	4.5%	0	0.0%	2	8.7%	0	-	2	6.9%	0	0.0%	0	-

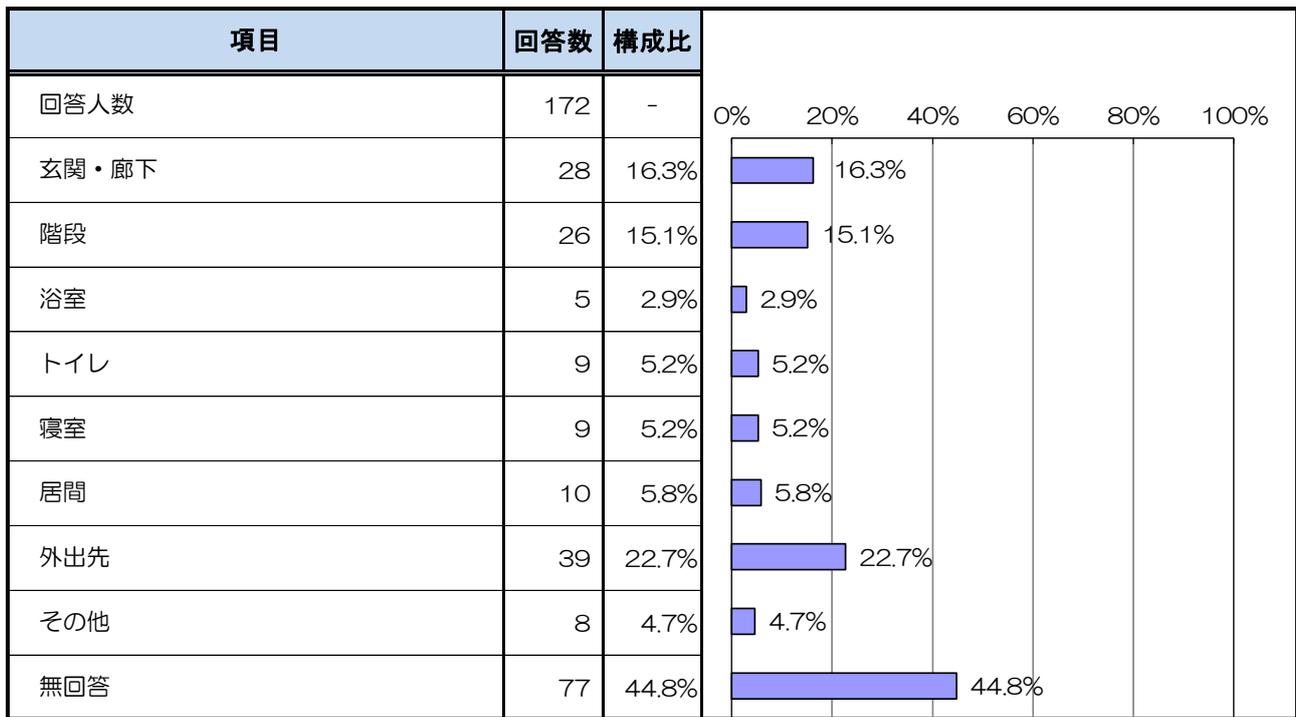
【高齢者】

※問 10 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 10-1 転んだことがある、または、転びそうになりヒヤリとした場所はどこですか。
(あてはまるものすべてに○)

ア 転んだことがある場所

「無回答」を除くと、「外出先」が 22.7%と最も高く、次いで、「玄関・廊下」の 16.3%の順となっており、無回答を除いた回答総数の 64.9%を「玄関・廊下」「階段」などの屋内が占めている。



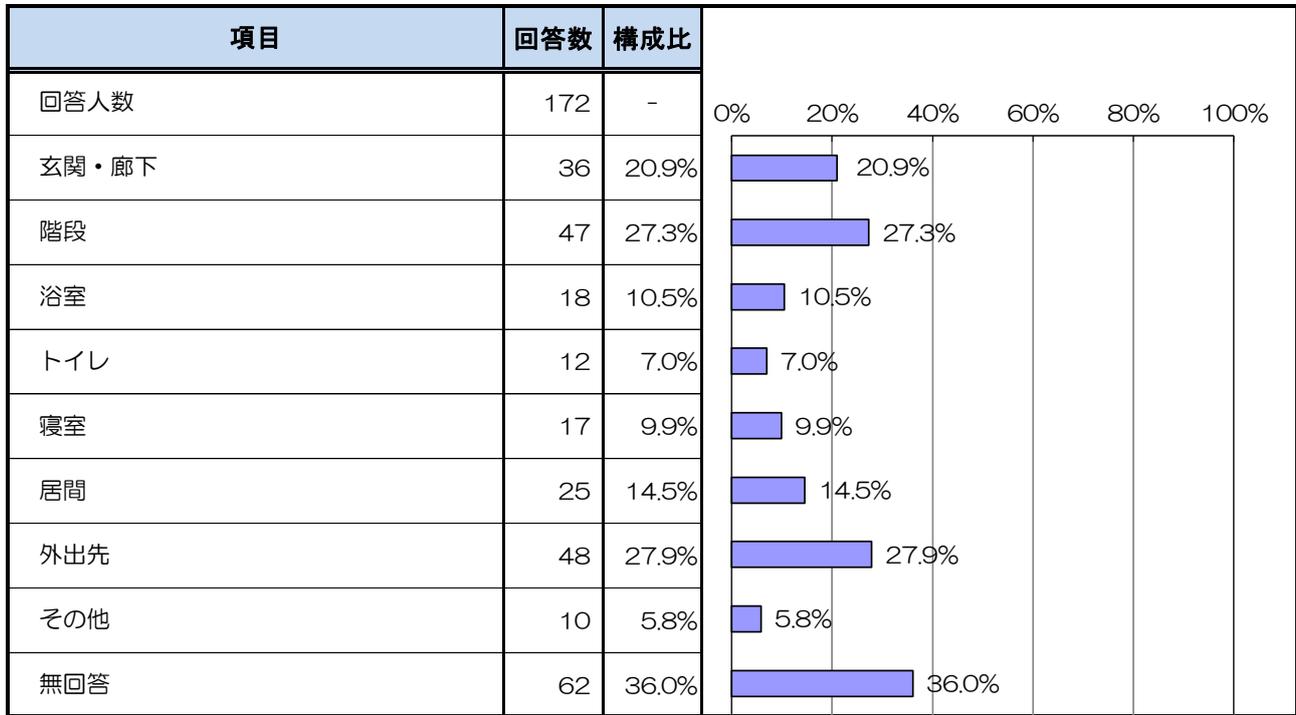
【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	13	-
玄関・廊下	3	23.1%
階段	2	15.4%
浴室	0	0.0%
トイレ	0	0.0%
寝室	0	0.0%
居間	0	0.0%
外出先	4	30.8%
その他	0	0.0%
無回答	6	46.2%

【高齢者】

イ ヒヤリとしたことがある場所

「無回答」を除くと、「外出先」が27.9%と最も高く、次いで、「階段」の27.3%の順となっており、無回答を除いた回答総数の72.8%を「玄関・廊下」「階段」などの屋内が占めている。

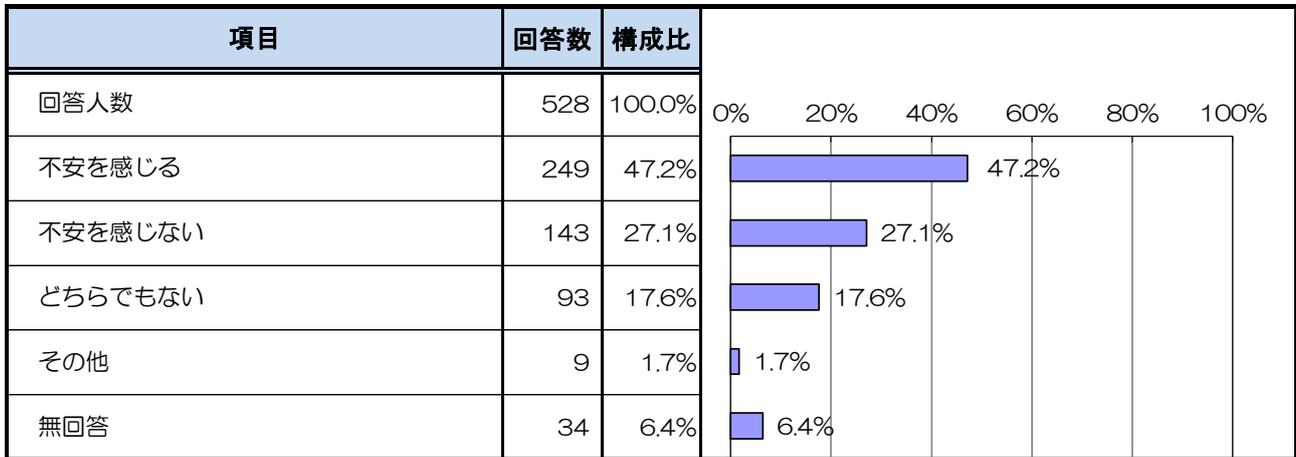


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	13	-
玄関・廊下	5	38.5%
階段	2	15.4%
浴室	3	23.1%
トイレ	1	7.7%
寝室	1	7.7%
居間	2	15.4%
外出先	4	30.8%
その他	1	7.7%
無回答	3	23.1%

問 11 転倒に対する不安はありますか。(1つに○)

転倒に対する不安については、「不安を感じる」が47.2%と最も高く、次いで、「不安を感じない」の27.1%、「どちらでもない」の17.6%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、女性の「不安を感じる」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「不安を感じる」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

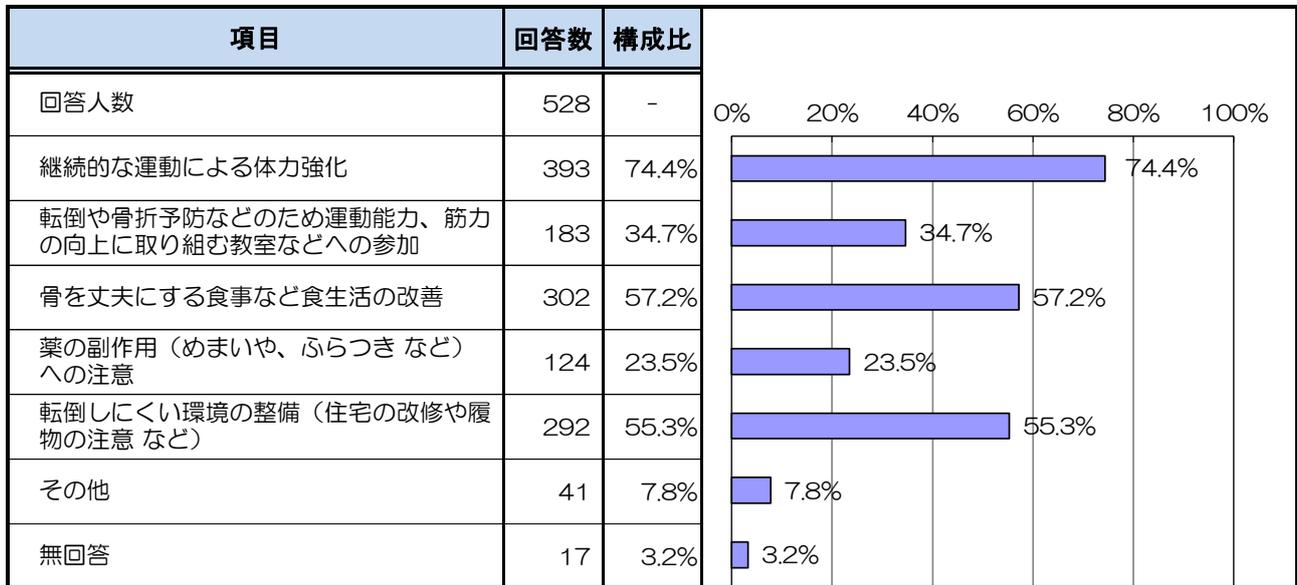
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
不安を感じる	249	47.2%	95	36.4%	150	57.3%	4	80.0%	133	38.2%	111	63.8%	5	83.3%
不安を感じない	143	27.1%	99	37.9%	44	16.8%	0	0.0%	119	34.2%	24	13.8%	0	0.0%
どちらでもない	93	17.6%	54	20.7%	38	14.5%	1	20.0%	65	18.7%	27	15.5%	1	16.7%
その他	9	1.7%	3	1.1%	6	2.3%	0	0.0%	7	2.0%	2	1.1%	0	0.0%
無回答	34	6.4%	10	3.8%	24	9.2%	0	0.0%	24	6.9%	10	5.7%	0	0.0%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	21	100.0%	23	100.0%	0	-	29	100.0%	15	100.0%	0	-
不安を感じる	22	50.0%	12	57.1%	10	43.5%	0	-	12	41.4%	10	66.7%	0	-
不安を感じない	9	20.5%	5	23.8%	4	17.4%	0	-	7	24.1%	2	13.3%	0	-
どちらでもない	10	22.7%	3	14.3%	7	30.4%	0	-	7	24.1%	3	20.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	3	6.8%	1	4.8%	2	8.7%	0	-	3	10.3%	0	0.0%	0	-

問 12 転倒事故を予防するために必要であると思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

転倒事故を予防するために必要であると思うことについては、「継続的な運動による体力強化」が74.4%と最も高く、次いで、「骨を丈夫にする食事など食生活の改善」の57.2%、「転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）」の55.3%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「継続的な運動による体力強化」の割合、女性の「転倒や骨折予防のため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加」「骨を丈夫にする食事など食生活の改善」がそれぞれ異性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「継続的な運動による体力強化」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
継続的な運動による体力強化	393	74.4%	210	80.5%	180	68.7%	3	60.0%	281	80.7%	109	62.6%	3	50.0%
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加	183	34.7%	77	29.5%	104	39.7%	2	40.0%	125	35.9%	55	31.6%	3	50.0%
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	302	57.2%	131	50.2%	169	64.5%	2	40.0%	203	58.3%	96	55.2%	3	50.0%
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	124	23.5%	63	24.1%	60	22.9%	1	20.0%	73	21.0%	49	28.2%	2	33.3%
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）	292	55.3%	137	52.5%	151	57.6%	4	80.0%	184	52.9%	104	59.8%	4	66.7%
その他	41	7.8%	14	5.4%	27	10.3%	0	0.0%	23	6.6%	18	10.3%	0	0.0%
無回答	17	3.2%	7	2.7%	10	3.8%	0	0.0%	10	2.9%	7	4.0%	0	0.0%

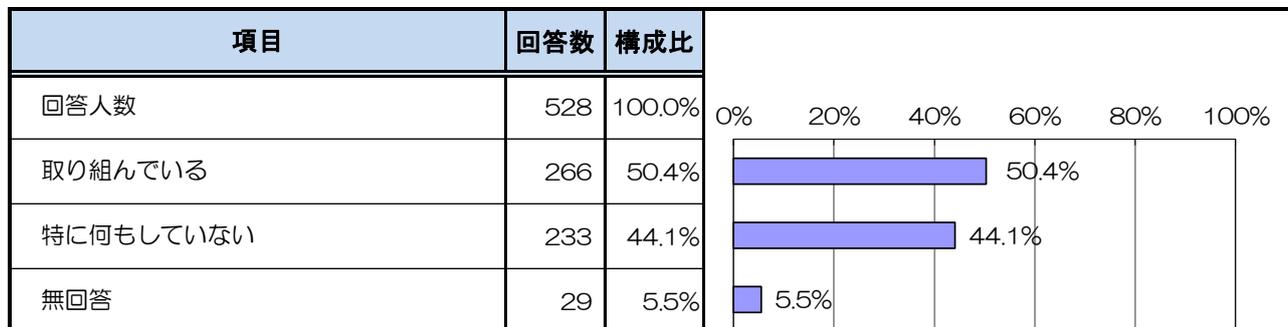
【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	-	21	-	23	-	0	-	29	-	15	-	0	-
継続的な運動による体力強化	34	77.3%	20	95.2%	14	60.9%	0	-	25	86.2%	9	60.0%	0	-
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組み教室などへの参加	16	36.4%	11	52.4%	5	21.7%	0	-	10	34.5%	6	40.0%	0	-
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	28	63.6%	14	66.7%	14	60.9%	0	-	17	58.6%	11	73.3%	0	-
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	10	22.7%	2	9.5%	8	34.8%	0	-	7	24.1%	3	20.0%	0	-
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意など）	21	47.7%	7	33.3%	14	60.9%	0	-	13	44.8%	8	53.3%	0	-
その他	5	11.4%	2	9.5%	3	13.0%	0	-	1	3.4%	4	26.7%	0	-
無回答	2	4.5%	0	0.0%	2	8.7%	0	-	1	3.4%	1	6.7%	0	-

【高齢者】

問 13 あなたは、転倒事故の予防に取り組んでいますか。(1つに○)

転倒事故の予防に取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が50.4%、「特に何もしていない」が44.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「特に何もしていない」の割合が女性と比較して高くなっている。
 年齢別では、65～74歳の「特に何もしていない」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
取り組んでいる	266	50.4%	123	47.1%	140	53.4%	3	60.0%	167	48.0%	96	55.2%	3	50.0%
特に何もしていない	233	44.1%	129	49.4%	102	38.9%	2	40.0%	169	48.6%	62	35.6%	2	33.3%
無回答	29	5.5%	9	3.4%	20	7.6%	0	0.0%	12	3.4%	16	9.2%	1	16.7%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

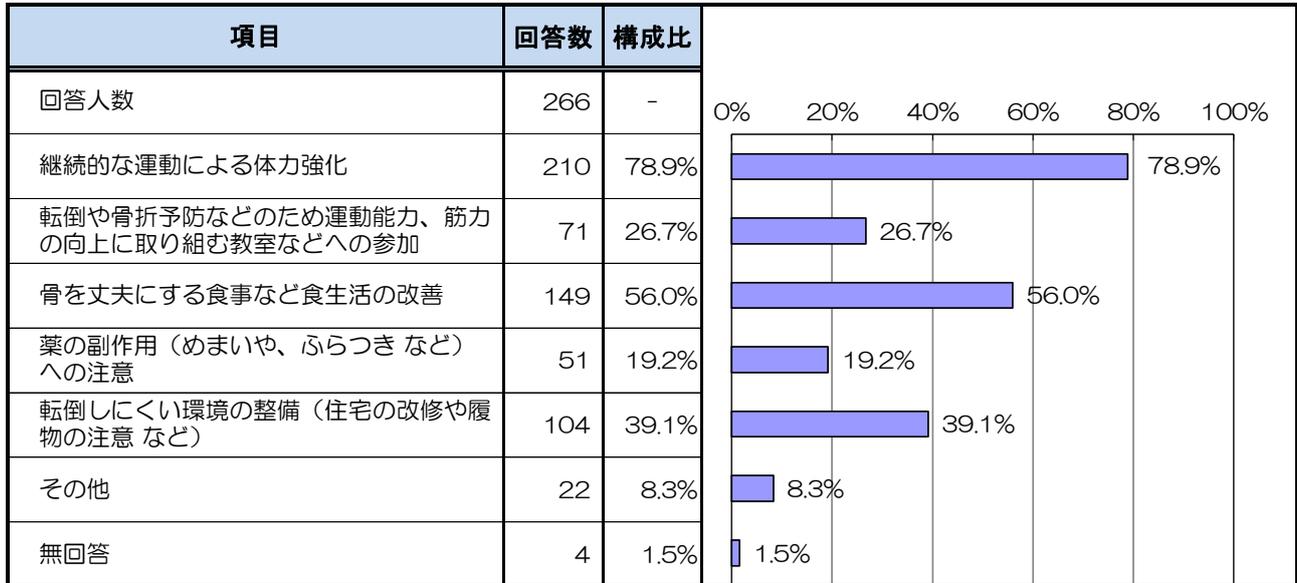
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	21	100.0%	23	100.0%	0	-	29	100.0%	15	100.0%	0	-
取り組んでいる	26	59.1%	13	61.9%	13	56.5%	0	-	17	58.6%	9	60.0%	0	-
特に何もしていない	17	38.6%	8	38.1%	9	39.1%	0	-	12	41.4%	5	33.3%	0	-
無回答	1	2.3%	0	0.0%	1	4.3%	0	-	0	0.0%	1	6.7%	0	-

【高齢者】

※問 13 で『1. 取り組んでいる』とご回答された方にお聞きします。

問 13-1 あなたが取り組んでいる転倒事故の予防活動は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のために取り組んでいることについては、「継続的な運動による体力強化」が 78.9%と最も高く、次いで、「骨を丈夫にする食事など食生活の改善」の 56.0%、「転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）」の 39.1%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「継続的な運動による体力強化」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「継続的な運動による体力強化」の割合、75歳以上の「転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）」の割合がそれぞれ他の年齢区分と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	266	-	123	-	140	-	3	-	167	-	96	-	3	-
継続的な運動による体力強化	210	78.9%	106	86.2%	101	72.1%	3	100.0%	141	84.4%	66	68.8%	3	100.0%
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加	71	26.7%	31	25.2%	39	27.9%	1	33.3%	49	29.3%	21	21.9%	1	33.3%
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	149	56.0%	63	51.2%	84	60.0%	2	66.7%	93	55.7%	54	56.3%	2	66.7%
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	51	19.2%	28	22.8%	22	15.7%	1	33.3%	28	16.8%	22	22.9%	1	33.3%
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意 など）	104	39.1%	48	39.0%	54	38.6%	2	66.7%	53	31.7%	49	51.0%	2	66.7%
その他	22	8.3%	14	11.4%	7	5.0%	1	33.3%	11	6.6%	10	10.4%	1	33.3%
無回答	4	1.5%	2	1.6%	2	1.4%	0	0.0%	1	0.6%	3	3.1%	0	0.0%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

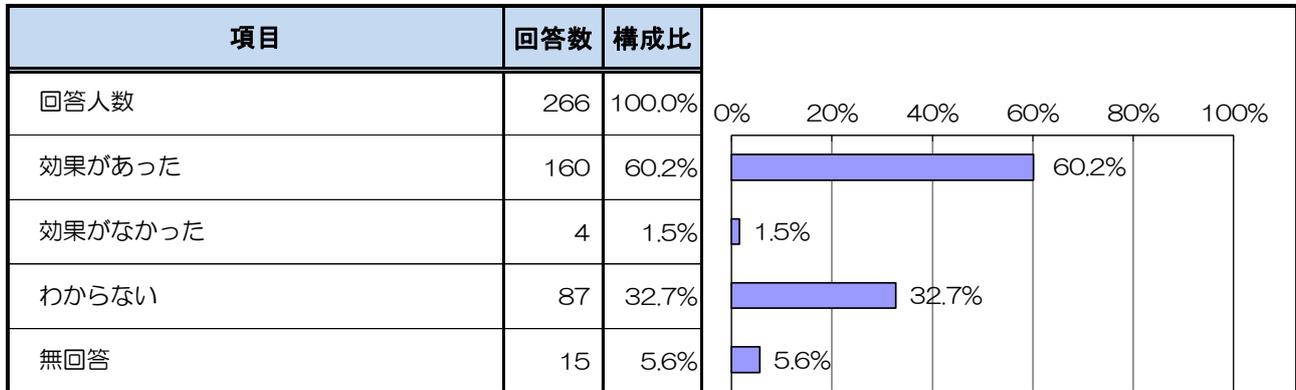
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	26	-	13	-	13	-	0	-	17	-	9	-	0	-
継続的な運動による体力強化	21	80.8%	12	92.3%	9	69.2%	0	-	14	82.4%	7	77.8%	0	-
転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組み教室などへの参加	5	19.2%	4	30.8%	1	7.7%	0	-	3	17.6%	2	22.2%	0	-
骨を丈夫にする食事など食生活の改善	16	61.5%	7	53.8%	9	69.2%	0	-	10	58.8%	6	66.7%	0	-
薬の副作用（めまいや、ふらつきなど）への注意	7	26.9%	3	23.1%	4	30.8%	0	-	4	23.5%	3	33.3%	0	-
転倒しにくい環境の整備（住宅の改修や履物の注意など）	9	34.6%	2	15.4%	7	53.8%	0	-	4	23.5%	5	55.6%	0	-
その他	1	3.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	11.1%	0	-
無回答	1	3.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	11.1%	0	-

【高齢者】

※問 13 で『1. 取り組んでいる』とご回答された方にお聞きします。

問 13-2 あなたが、転倒事故の予防活動に取り組んだ効果はありましたか。(1つに○)

転倒事故の予防活動に取り組んだ効果については、「効果があった」が 60.2%と最も高く、次いで、「わからない」の 32.7%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

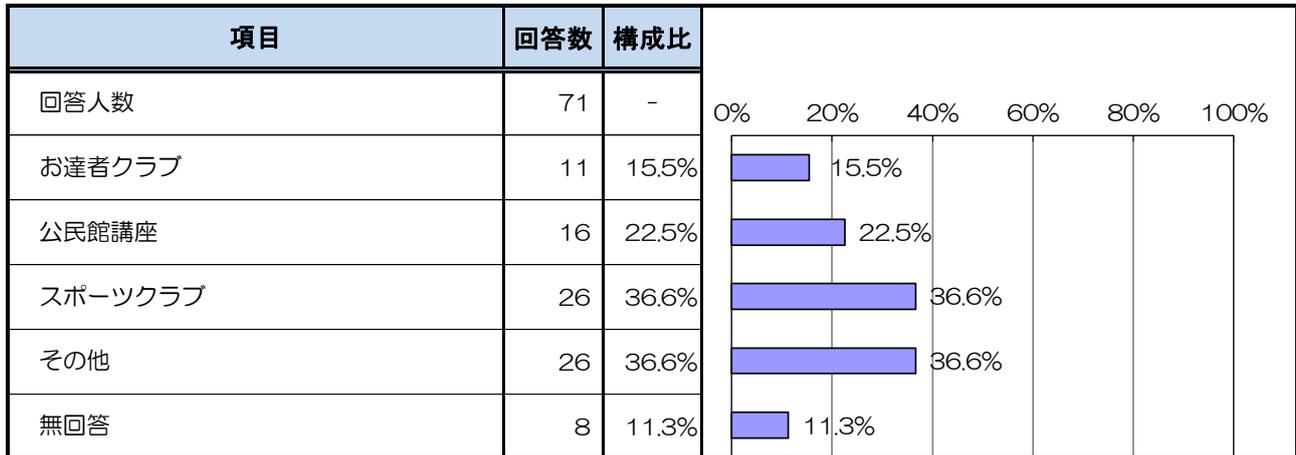
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	26	100.0%
効果があった	14	53.8%
効果がなかった	0	0.0%
分からない	10	38.5%
無回答	2	7.7%

【高齢者】

※問 13-1で『2. 転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-3 次のうち、あなたが、参加されているものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のために参加していることについては、「その他」を除くと、「スポーツクラブ」が 36.6%と最も高く、次いで、「公民館講座」の 22.5%、「お達者クラブ」の 15.5%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

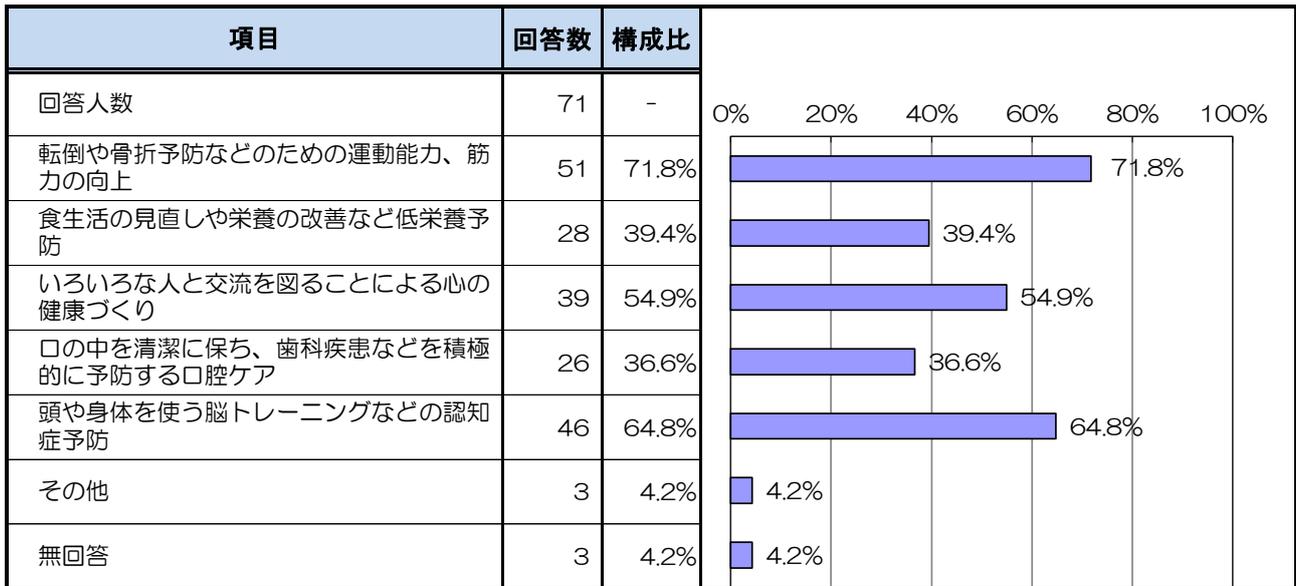
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	5	-
お達者クラブ	1	20.0%
公民館講座	0	0.0%
スポーツクラブ	1	20.0%
その他	3	60.0%
無回答	1	20.0%

【高齢者】

※問 13-1 で『2. 転倒や骨折予防などのため運動能力、筋力の向上に取り組む教室などへの参加』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-4 次のうち、あなたが、参加したいと思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のために参加したいと思うものについては、「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」が71.8%と最も高く、次いで、「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」の64.8%、「いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり」の54.9%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」「いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、すべての回答項目において、75歳以上の回答割合が65~74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	71	-	31	-	39	-	1	-	49	-	21	-	1	-
転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上	51	71.8%	24	77.4%	26	66.7%	1	100.0%	32	65.3%	18	85.7%	1	100.0%
食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防	28	39.4%	13	41.9%	14	35.9%	1	100.0%	15	30.6%	12	57.1%	1	100.0%
いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり	39	54.9%	19	61.3%	19	48.7%	1	100.0%	22	44.9%	16	76.2%	1	100.0%
口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア	26	36.6%	10	32.3%	15	38.5%	1	100.0%	17	34.7%	8	38.1%	1	100.0%
頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防	46	64.8%	21	67.7%	24	61.5%	1	100.0%	28	57.1%	17	81.0%	1	100.0%
その他	3	4.2%	3	9.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	2	9.5%	0	0.0%
無回答	3	4.2%	1	3.2%	2	5.1%	0	0.0%	3	6.1%	0	0.0%	0	0.0%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

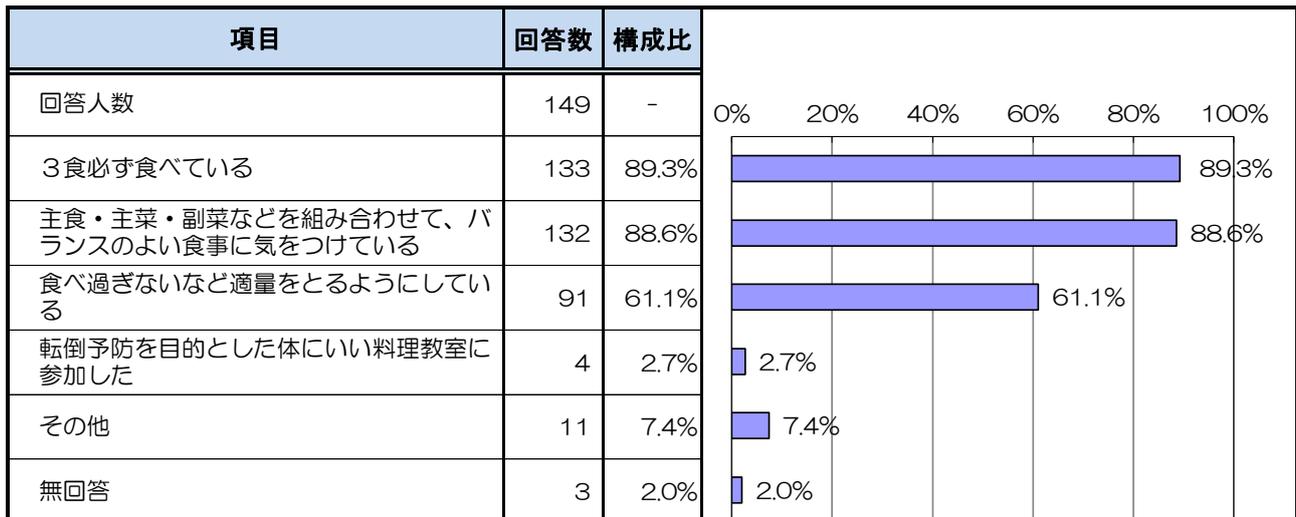
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	5	-	4	-	1	-	0	-	3	-	2	-	0	-
転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上	4	80.0%	3	75.0%	1	100.0%	0	-	2	66.7%	2	100.0%	0	-
食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防	3	60.0%	2	50.0%	1	100.0%	0	-	1	33.3%	2	100.0%	0	-
いろいろな人と交流を図ることによる心の健康づくり	2	40.0%	1	25.0%	1	100.0%	0	-	0	0.0%	2	100.0%	0	-
口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア	3	60.0%	2	50.0%	1	100.0%	0	-	1	33.3%	2	100.0%	0	-
頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防	4	80.0%	3	75.0%	1	100.0%	0	-	2	66.7%	2	100.0%	0	-
その他	1	20.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	50.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-

【高齢者】

※問 13-1 で『3. 骨を丈夫にする食事など食生活の改善』に取り組んでいるとご回答された方にお聞きします。

問 13-5 食生活の改善として気をつけている点や、取り組んだことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

食生活の改善として気をつけている点や、取り組んだことについては、「3食必ず食べている」が89.3%と最も高く、次いで、「主食・主菜・副菜などを組み合わせて、バランスのよい食事に気をつけている」の88.6%、「食べ過ぎないなど適量をとるようにしている」の61.1%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

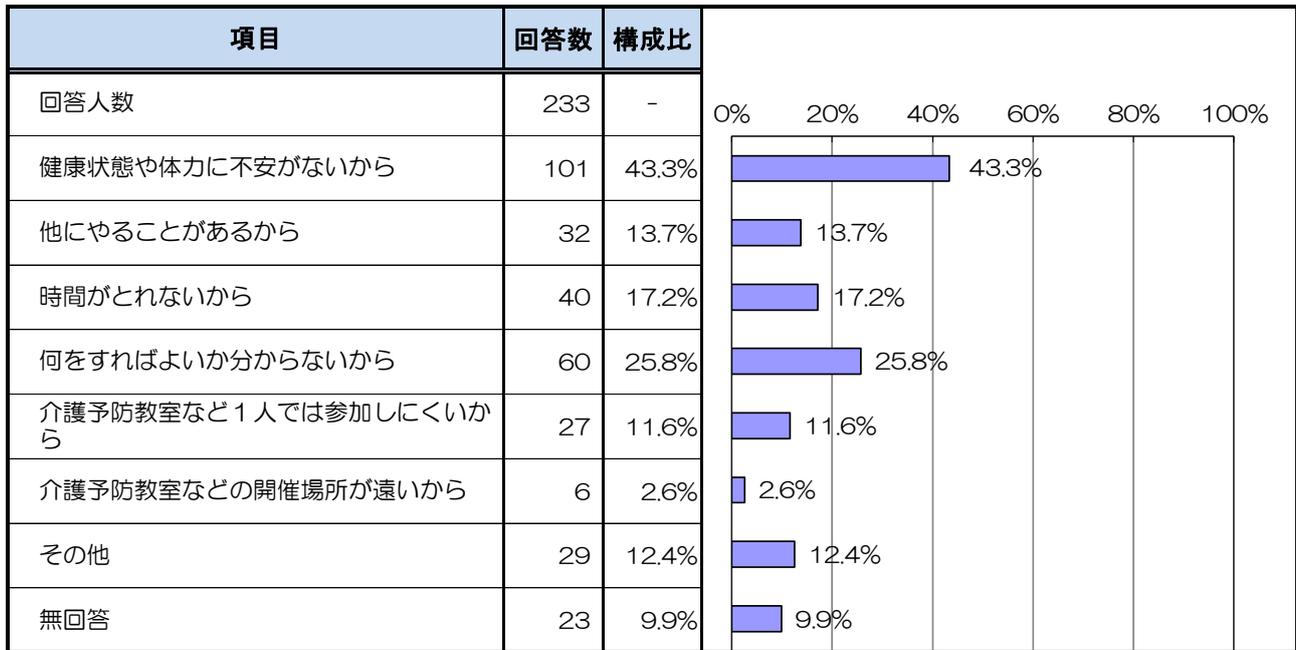
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	16	-
3食必ず食べている	16	100.0%
主食・主菜・副菜などを組み合わせて、バランスのよい食事に気をつけている	16	100.0%
食べ過ぎないなど適量をとるようにしている	10	62.5%
転倒予防を目的とした体にいい料理教室に参加した	1	6.3%
その他	2	12.5%
無回答	0	0.0%

【高齢者】

※問 13 で『2. 特に何もしていない』とご回答された方にお聞きします。

問 13-6 転倒事故の予防に関して、特に何もしていない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のための取組をしていない理由については、「健康状態や体力に不安がないから」が 43.3%と最も高く、次いで、「何をすればよいか分からないから」の 25.8%、「時間がとれないから」の 17.2%の順となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「健康状態や体力に不安がないから」「他にやることがあるから」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「健康状態や体力に不安がないから」「時間がとれないから」の割合、75歳以上の「何をすればよいか分からないから」「介護予防教室など1人では参加しにくいから」の割合がそれぞれ他の年齢区分と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	233	-	129	-	102	-	2	-	169	-	62	-	2	-
健康状態や体力に不安がないから	101	43.3%	70	54.3%	30	29.4%	1	50.0%	85	50.3%	15	24.2%	1	50.0%
他にやることがあるから	32	13.7%	25	19.4%	7	6.9%	0	0.0%	26	15.4%	6	9.7%	0	0.0%
時間がとれないから	40	17.2%	20	15.5%	19	18.6%	1	50.0%	33	19.5%	6	9.7%	1	50.0%
何をすればよいか分からないから	60	25.8%	29	22.5%	30	29.4%	1	50.0%	38	22.5%	21	33.9%	1	50.0%
介護予防教室など1人では参加しにくいから	27	11.6%	9	7.0%	17	16.7%	1	50.0%	13	7.7%	13	21.0%	1	50.0%
介護予防教室などの開催場所が遠いから	6	2.6%	3	2.3%	3	2.9%	0	0.0%	2	1.2%	4	6.5%	0	0.0%
その他	29	12.4%	8	6.2%	21	20.6%	0	0.0%	16	9.5%	13	21.0%	0	0.0%
無回答	23	9.9%	12	9.3%	11	10.8%	0	0.0%	14	8.3%	9	14.5%	0	0.0%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	17	-	8	-	9	-	0	-	12	-	5	-	0	-
健康状態や体力に不安がないから	10	58.8%	5	62.5%	5	55.6%	0	-	9	75.0%	1	20.0%	0	-
他にやることがあるから	4	23.5%	4	50.0%	0	0.0%	0	-	3	25.0%	1	20.0%	0	-
時間がとれないから	4	23.5%	1	12.5%	3	33.3%	0	-	4	33.3%	0	0.0%	0	-
何をすればよいか分からないから	10	58.8%	3	37.5%	7	77.8%	0	-	5	41.7%	5	100.0%	0	-
介護予防教室など1人では参加しにくいから	3	17.6%	0	0.0%	3	33.3%	0	-	2	16.7%	1	20.0%	0	-
介護予防教室などの開催場所が遠いから	1	5.9%	1	12.5%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	20.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-

問 14 家の中の転倒しやすい場所や、家の中で転倒する原因を知っていますか。(1つに○)

家の中で転倒しやすい場所や転倒する原因を知っているかについては、「知っている」が62.1%と最も高く、次いで、「少し知っている」の25.8%の順となっている。



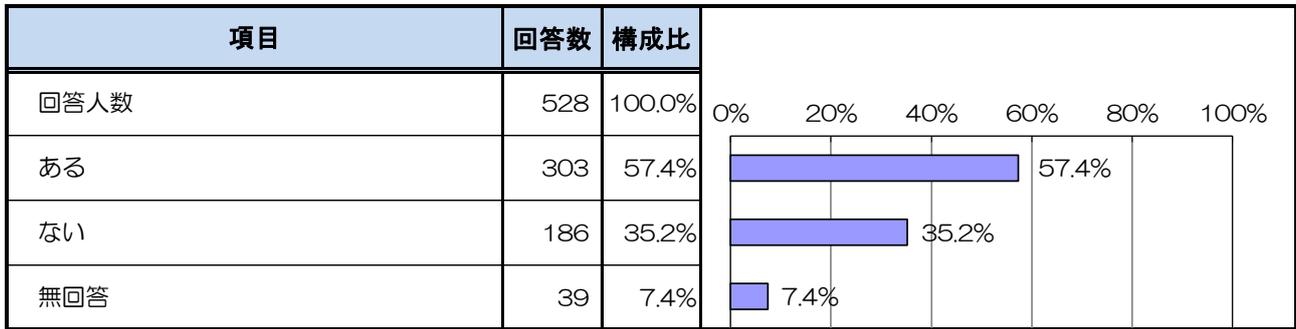
【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
知っている	28	63.6%
少し知っている	12	27.3%
知らない	3	6.8%
無回答	1	2.3%

【高齢者】

問 15 自宅で転倒予防のため工夫していることがありますか。(1つに○)

自宅での転倒予防のための工夫の有無については、「ある」が57.4%、「ない」が35.2%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、75歳以上の「ある」の割合が65～74歳と比較して高くなっている。

項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
ある	303	57.4%	179	51.4%	119	68.4%	5	83.3%
ない	186	35.2%	146	42.0%	40	23.0%	0	0.0%
無回答	39	7.4%	23	6.6%	15	8.6%	1	16.7%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

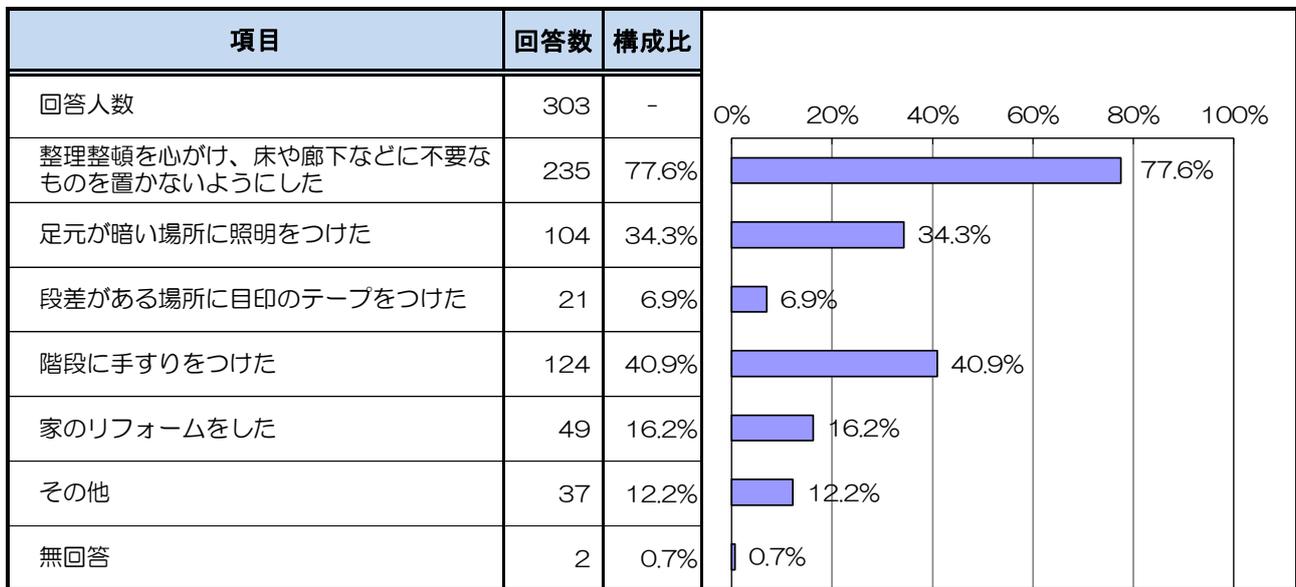
項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	29	100.0%	15	100.0%	0	-
ある	27	61.4%	17	58.6%	10	66.7%	0	-
ない	14	31.8%	11	37.9%	3	20.0%	0	-
無回答	3	6.8%	1	3.4%	2	13.3%	0	-

【高齢者】

※問 15 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 15-1 転倒予防のため工夫していることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

転倒予防のため工夫していることについては、「整理整頓を心がけ、床や廊下などに不要なものを置かないようにした」が 77.6%と最も高く、次いで、「階段に手すりをつけた」の 40.9%、「足元が暗い場所に照明をつけた」の 34.3%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	27	-
整理整頓を心がけ、床や廊下などに不要なものを置かないようにした	21	77.8%
足元が暗い場所に照明をつけた	13	48.1%
段差がある場所に目印のテープをつけた	2	7.4%
階段に手すりをつけた	15	55.6%
家のリフォームをした	4	14.8%
その他	3	11.1%
無回答	1	3.7%

問 16 あなたは、ご自身や家族について、認知症に対する不安や心配がありますか。(1つに○)

認知症に対する不安については、「ある」が 60.2%と最も高く、次いで、「ない」の 23.9%、「わからない」の 11.4%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
ある	29	65.9%
ない	9	20.5%
わからない	5	11.4%
無回答	1	2.3%

問 17 あなたは、認知症は病気によるものだと知っていますか。(1つに○)

認知症が病気によるものであることについては、「知っている」が75.2%、「知らない」が19.5%となっている。



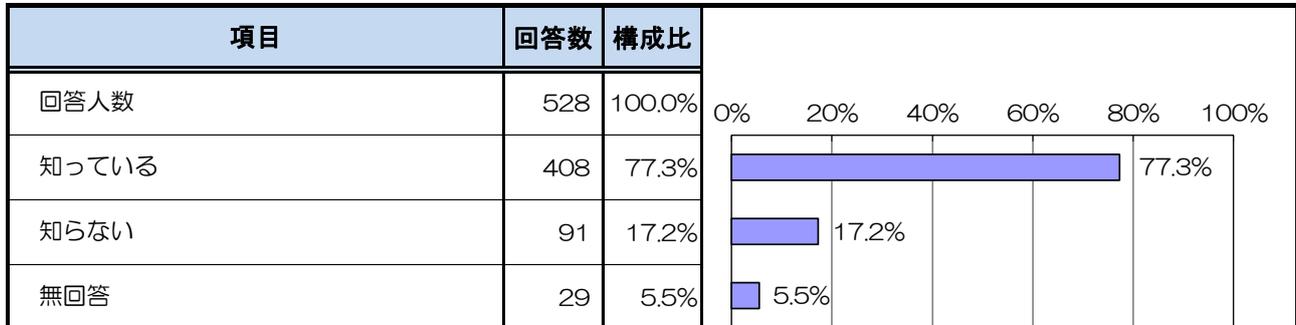
【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
知っている	36	81.8%
知らない	7	15.9%
無回答	1	2.3%

【高齢者】

問 18 あなたは、認知症への理解不足が高齢者の方への虐待につながることを知っているですか。（1つに○）

認知症への理解不足が高齢者への虐待につながることを知っているについては、「知っている」が77.3%、「知らない」が17.2%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、65～74歳の「知っている」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

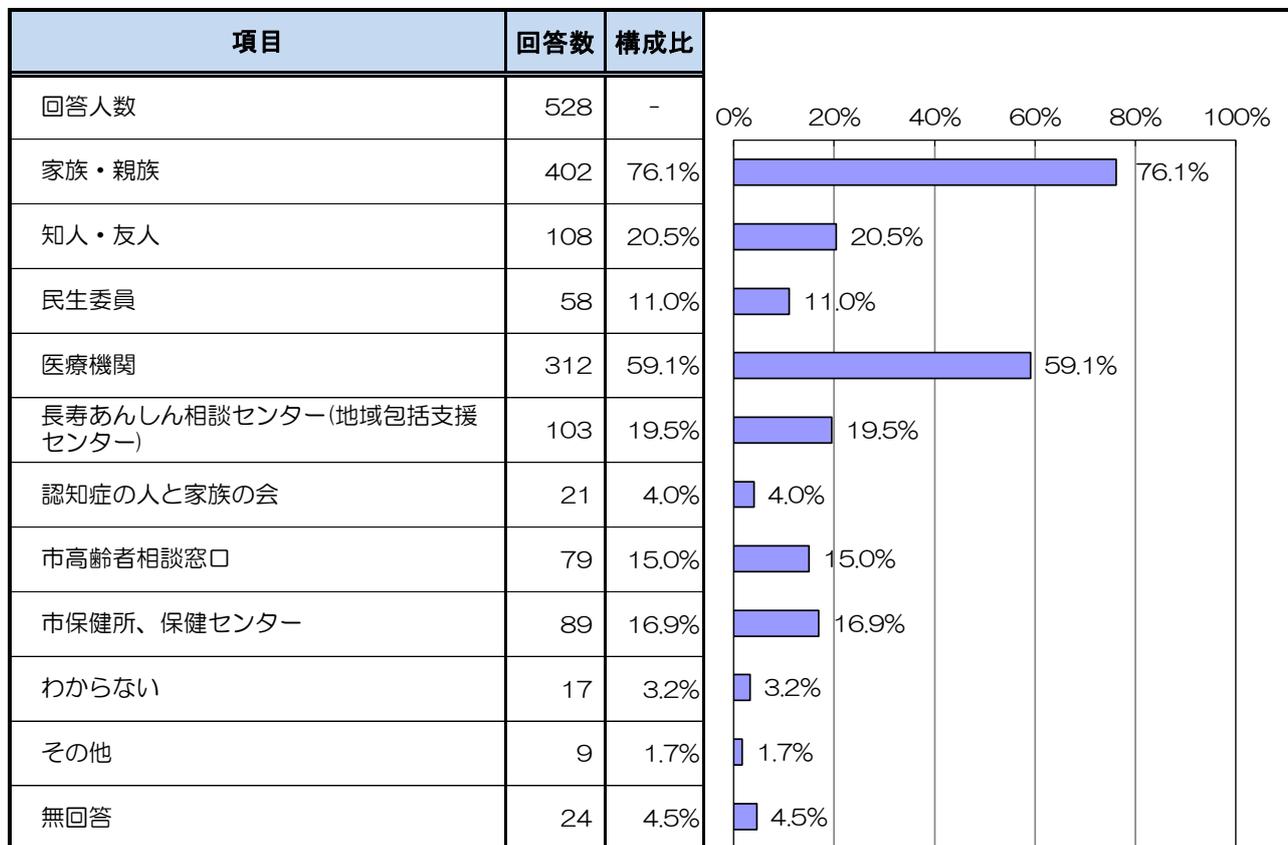
項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
知っている	408	77.3%	284	81.6%	120	69.0%	4	66.7%
知らない	91	17.2%	50	14.4%	39	22.4%	2	33.3%
無回答	29	5.5%	14	4.0%	15	8.6%	0	0.0%

【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数		年齢					
			65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	44	100.0%	29	100.0%	15	100.0%	0	-
知っている	35	79.5%	25	86.2%	10	66.7%	0	-
知らない	8	18.2%	4	13.8%	4	26.7%	0	-
無回答	1	2.3%	0	0.0%	1	6.7%	0	-

問 19 あなたが自身や家族について認知症に関する不安をもったとき、相談したいと考えるのはだれ(どこ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

認知症について相談したいと思う人や機関については、「家族・親族」が76.1%と最も高く、次いで、「医療機関」の59.1%、「知人・友人」の20.5%の順となっている。

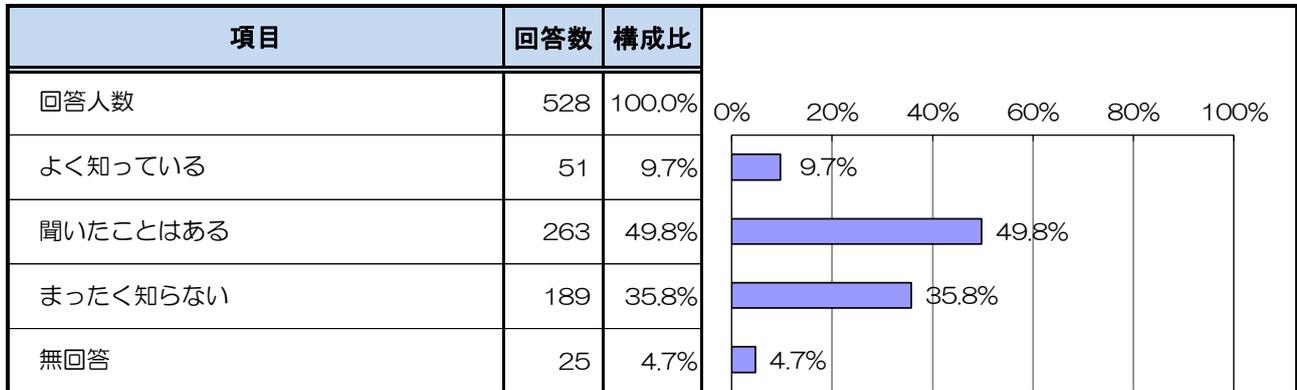


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	-
家族・親族	42	95.5%
知人・友人	11	25.0%
民生委員	1	2.3%
医療機関	30	68.2%
長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)	8	18.2%
認知症の人と家族の会	3	6.8%
市高齢者相談窓口	8	18.2%
市保健所、保健センター	8	18.2%
わからない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%

問 20 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つに○）

認知症サポーターについては、「聞いたことはある」が49.8%と最も高く、次いで、「まったく知らない」の35.8%、「よく知っている」の9.7%の順となっている。

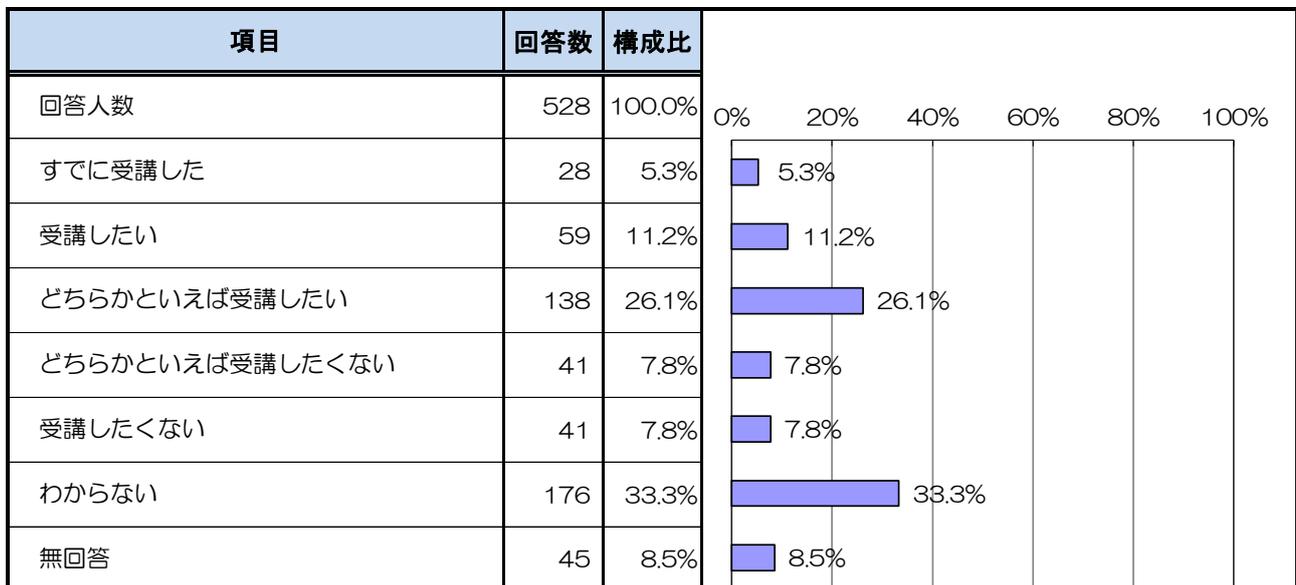


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
よく知っている	4	9.1%
聞いたことはある	25	56.8%
まったく知らない	14	31.8%
無回答	1	2.3%

問 21 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講してみたいと思いますか。(1つに○)

「認知症サポーター養成講座」の受講意思については、「わからない」が33.3%と最も高く、次いで、「どちらかといえば受講したい」の26.1%、「受講したい」の11.2%の順となっている。



【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

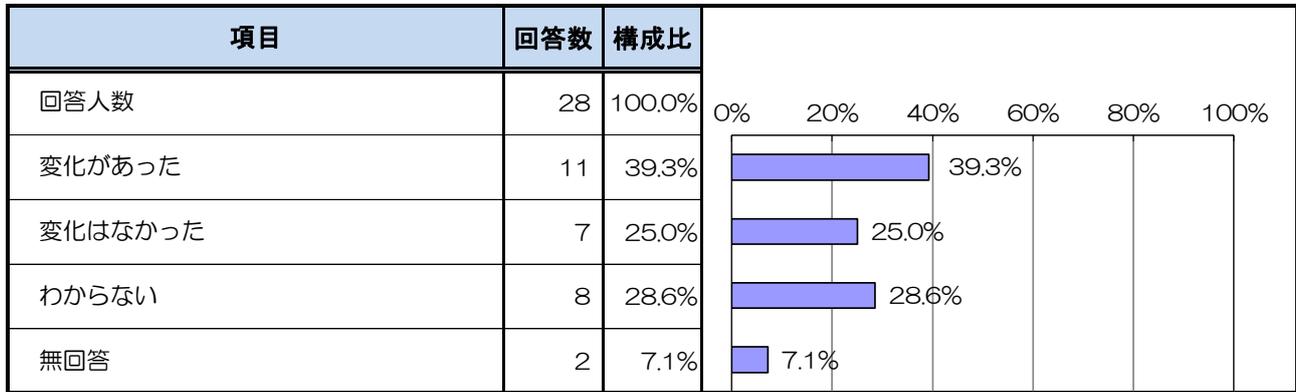
項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	44	100.0%
すでに受講した	3	6.8%
受講したい	3	6.8%
どちらかといえば受講したい	9	20.5%
どちらかといえば受講したくない	8	18.2%
受講したくない	3	6.8%
わからない	16	36.4%
無回答	2	4.5%

【高齢者】

※問 21 で『1. すでに受講した』とご回答された方にお聞きします。

問 21-1 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講して、認知症の方への対応に変化がありましたか。(1つに○)

「認知症サポーター養成講座」受講後の認知症の方への対応の変化については、「変化があった」が 39.3%と最も高く、次いで、「わからない」の 28.6%、「変化はなかった」の 25.0%の順となっている。

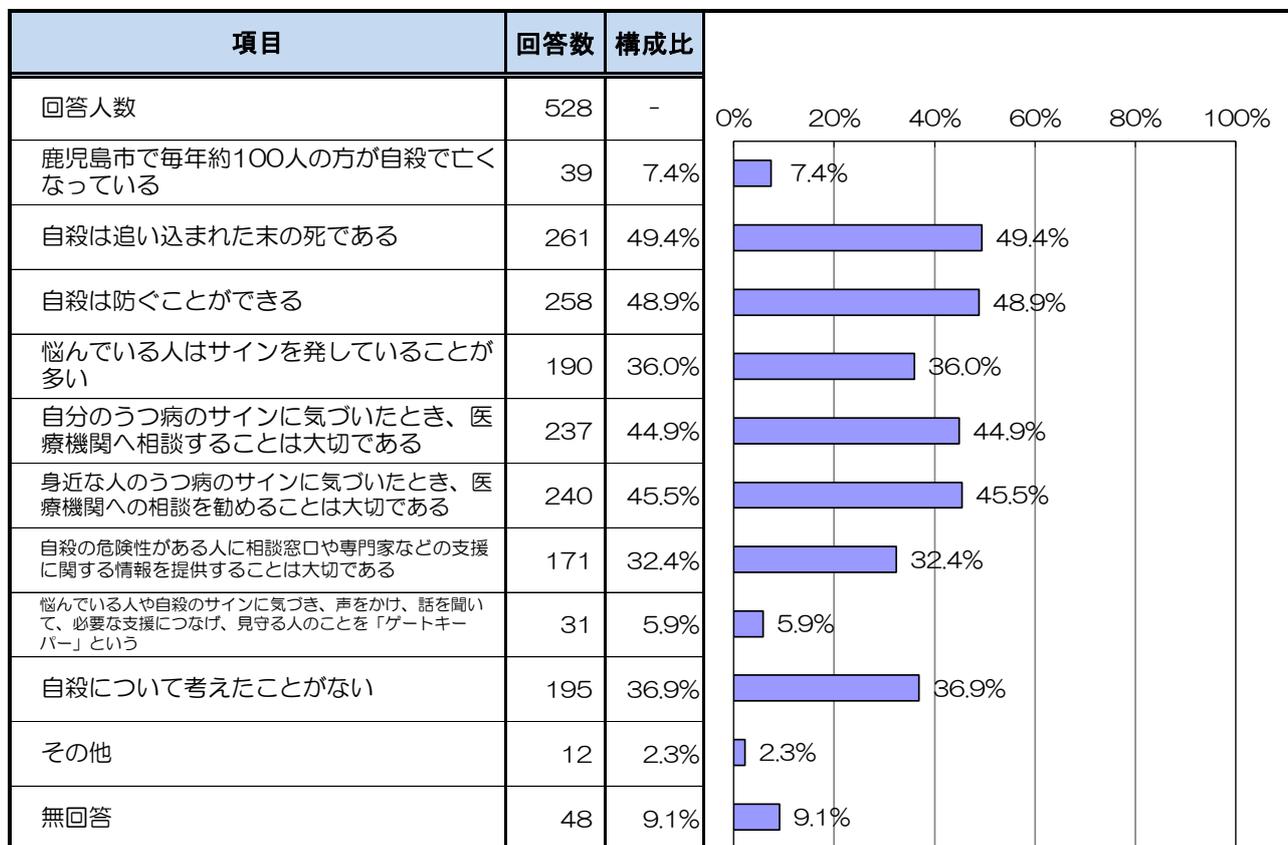


【モデル地区（皇徳寺台東町内会）】

項目	回答人数	
	人数	割合
回答人数	3	100.0%
変化があった	1	33.3%
変化はなかった	1	33.3%
わからない	1	33.3%
無回答	0	0.0%

問 22 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自殺についての認識度については、「自殺は追い込まれた末の死である」が49.4%と最も高く、次いで、「自殺は防ぐことができる」の48.9%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」の45.5%の順となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男性では「自殺は防ぐことができる」、女性では「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

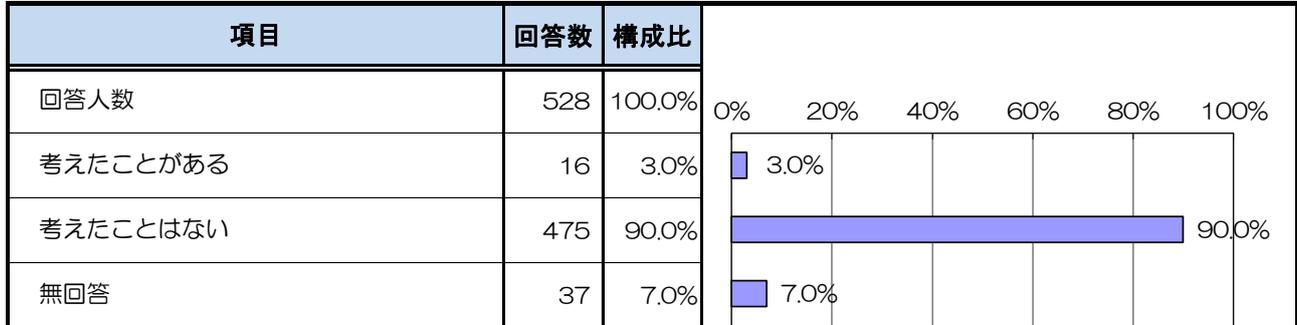
年齢別では、65～74歳では「自殺は防ぐことができる」、75歳以上では「自殺は追い込まれた末の死である」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
鹿児島市で毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	39	7.4%	20	7.7%	18	6.9%	1	20.0%	22	6.3%	16	9.2%	1	16.7%
自殺は追い込まれた末の死である	261	49.4%	134	51.3%	125	47.7%	2	40.0%	185	53.2%	73	42.0%	3	50.0%
自殺は防ぐことができる	258	48.9%	135	51.7%	120	45.8%	3	60.0%	187	53.7%	67	38.5%	4	66.7%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	190	36.0%	99	37.9%	88	33.6%	3	60.0%	147	42.2%	40	23.0%	3	50.0%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	237	44.9%	108	41.4%	126	48.1%	3	60.0%	165	47.4%	68	39.1%	4	66.7%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	240	45.5%	118	45.2%	120	45.8%	2	40.0%	173	49.7%	65	37.4%	2	33.3%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	171	32.4%	84	32.2%	84	32.1%	3	60.0%	109	31.3%	58	33.3%	4	66.7%
悩んでいる人や自殺のサインに気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことを「ゲートキーパー」という	31	5.9%	16	6.1%	15	5.7%	0	0.0%	23	6.6%	8	4.6%	0	0.0%
自殺について考えたことがない	195	36.9%	101	38.7%	91	34.7%	3	60.0%	121	34.8%	71	40.8%	3	50.0%
その他	12	2.3%	5	1.9%	7	2.7%	0	0.0%	5	1.4%	7	4.0%	0	0.0%
無回答	48	9.1%	18	6.9%	30	11.5%	0	0.0%	18	5.2%	30	17.2%	0	0.0%

【高齢者】

問 23 あなたは、この1年間（平成27年7月から平成28年6月まで）で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。（1つに○）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことはない」が90.0%、「考えたことがある」が3.0%となっている。



【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異は見られない。

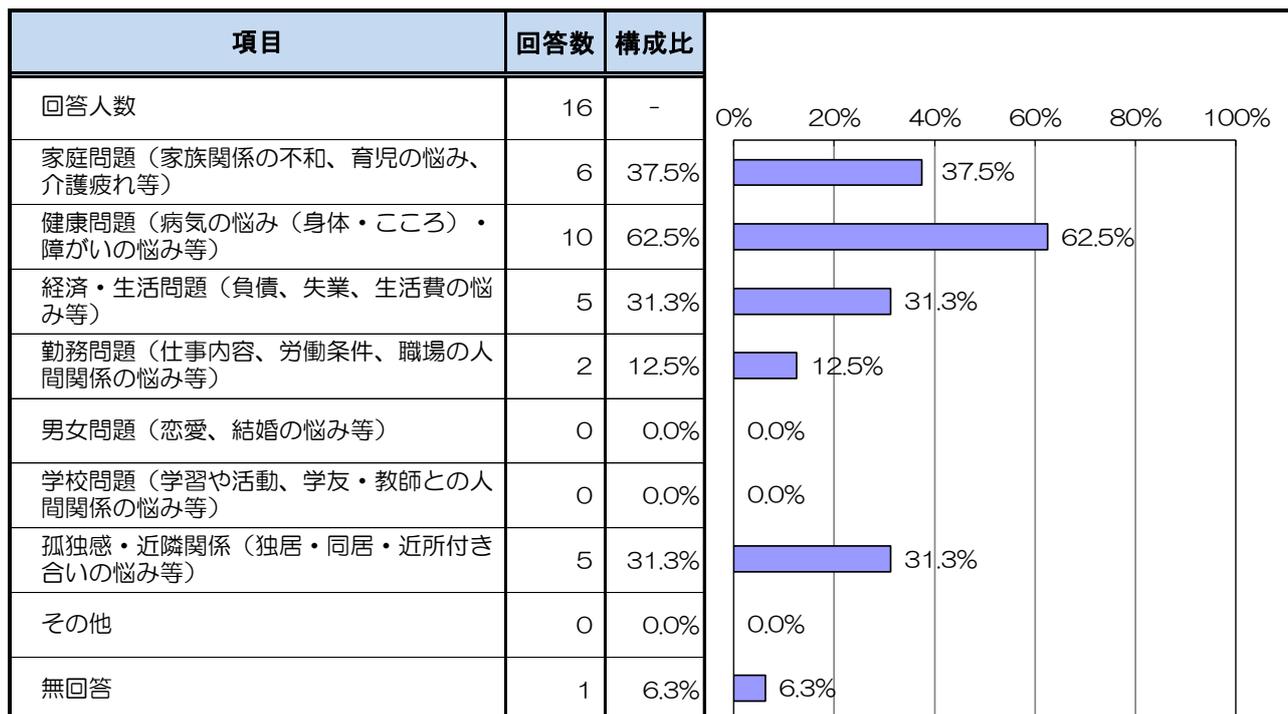
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
考えたことがある	16	3.0%	7	2.7%	9	3.4%	0	0.0%	8	2.3%	8	4.6%	0	0.0%
考えたことはない	475	90.0%	235	90.0%	235	89.7%	5	100.0%	320	92.0%	149	85.6%	6	100.0%
無回答	37	7.0%	19	7.3%	18	6.9%	0	0.0%	20	5.7%	17	9.8%	0	0.0%

※問 23 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 23-1 自殺を考えたときの原因は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものには◎を1つつけてください。

ア 自殺を考えたときの原因

「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」が62.5%と最も高く、次いで、「家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）」の37.5%、「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」「孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）」の31.3%の順となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男女ともに「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」の割合が最も高くなっている。

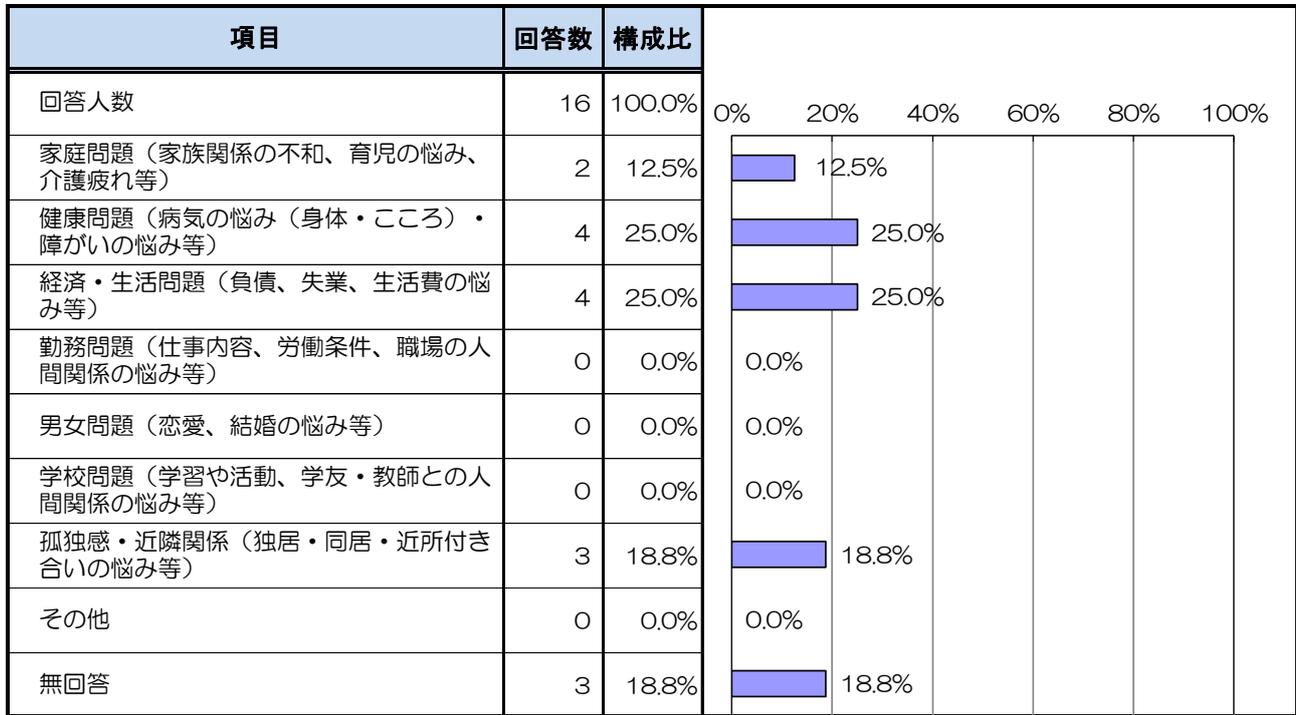
年齢別では、65～74歳・75歳以上ともに「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」の割合が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	16	-	7	-	9	-	0	-	8	-	8	-	0	-
家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	6	37.5%	3	42.9%	3	33.3%	0	-	3	37.5%	3	37.5%	0	-
健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	10	62.5%	6	85.7%	4	44.4%	0	-	6	75.0%	4	50.0%	0	-
経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	5	31.3%	2	28.6%	3	33.3%	0	-	3	37.5%	2	25.0%	0	-
勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	2	12.5%	1	14.3%	1	11.1%	0	-	2	25.0%	0	0.0%	0	-
男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	5	31.3%	3	42.9%	2	22.2%	0	-	3	37.5%	2	25.0%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	1	6.3%	0	0.0%	1	11.1%	0	-	0	0.0%	1	12.5%	0	-

【高齢者】

イ 自殺を考えたときの一番の原因

「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」が25.0%と最も高くなっている。



【属性別特徴】

性別では、男性では「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」、女性では「孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

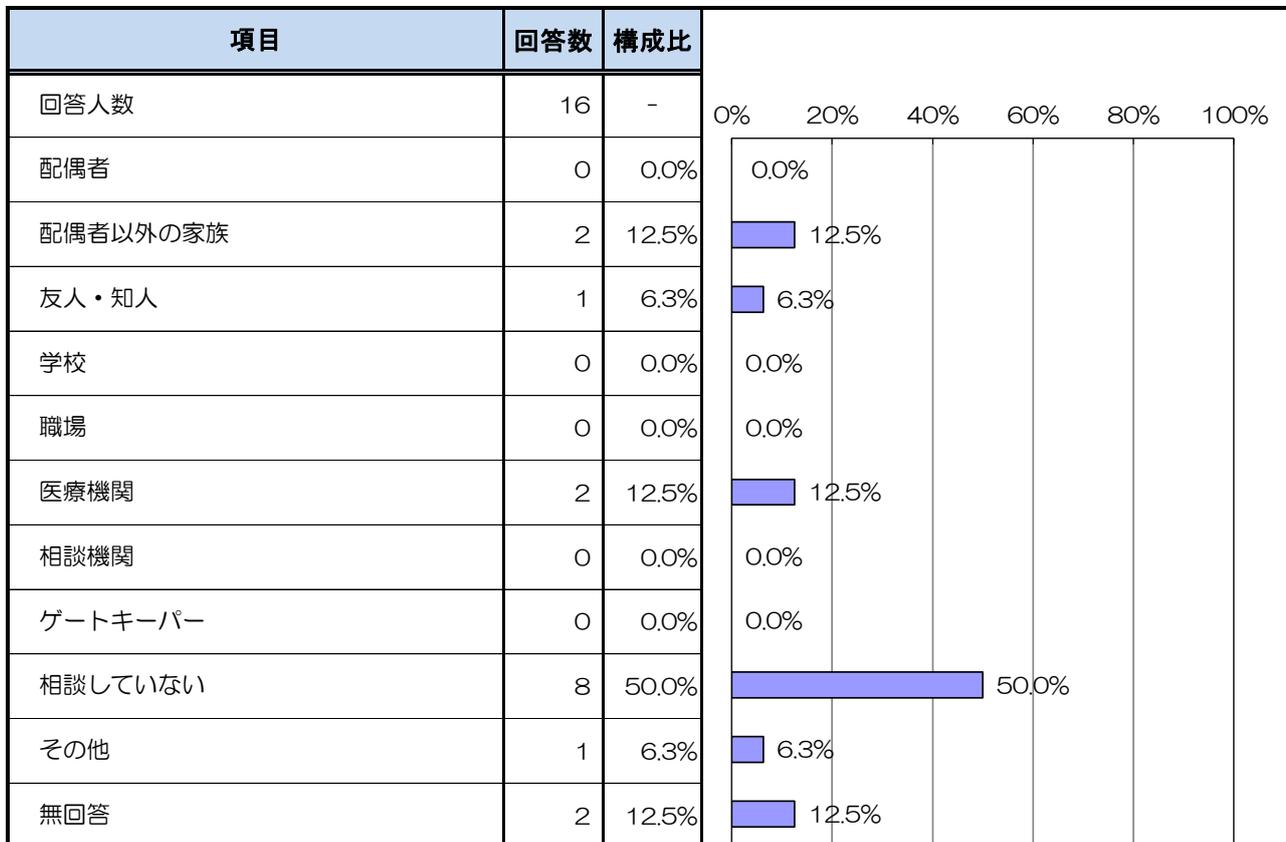
年齢別では、65～74歳では「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」、75歳以上では「孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	16	100.0%	7	100.0%	9	100.0%	0	-	8	100.0%	8	100.0%	0	-
家庭問題（家族関係の不和、育児の悩み、介護疲れ等）	2	12.5%	0	0.0%	2	22.2%	0	-	0	0.0%	2	25.0%	0	-
健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）	4	25.0%	3	42.9%	1	11.1%	0	-	2	25.0%	2	25.0%	0	-
経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）	4	25.0%	2	28.6%	2	22.2%	0	-	4	50.0%	0	0.0%	0	-
勤務問題（仕事内容、労働条件、職場の人間関係の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
男女問題（恋愛、結婚の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
学校問題（学習や活動、学友・教師との人間関係の悩み等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
孤独感・近隣関係（独居・同居・近所付き合いの悩み等）	3	18.8%	0	0.0%	3	33.3%	0	-	0	0.0%	3	37.5%	0	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
無回答	3	18.8%	2	28.6%	1	11.1%	0	-	2	25.0%	1	12.5%	0	-

※問 23 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 23-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 50.0%と最も高くなっている。



【属性別特徴】

性別では、男女ともに「相談していない」の割合が最も高くなっている。

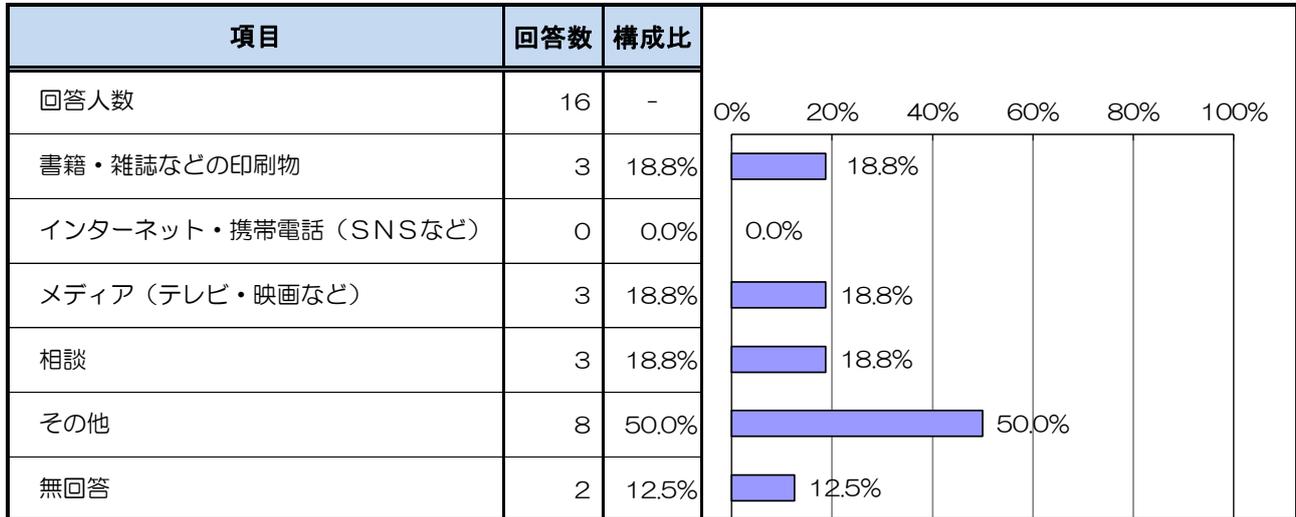
年齢別では、65～74歳・75歳以上ともに「相談していない」の割合が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	16	-	7	-	9	-	0	-	8	-	8	-	0	-
配偶者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
配偶者以外の家族	2	12.5%	0	0.0%	2	22.2%	0	-	0	0.0%	2	25.0%	0	-
友人・知人	1	6.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	-	1	12.5%	0	0.0%	0	-
学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
職場	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
医療機関	2	12.5%	2	28.6%	0	0.0%	0	-	1	12.5%	1	12.5%	0	-
相談機関（市役所・いのちの電話など）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
ゲートキーパー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	0.0%	0	-
相談していない	8	50.0%	3	42.9%	5	55.6%	0	-	5	62.5%	3	37.5%	0	-
その他	1	6.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	-	1	12.5%	0	0.0%	0	-
無回答	2	12.5%	0	0.0%	2	22.2%	0	-	0	0.0%	2	25.0%	0	-

※問 23 で『1. 考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

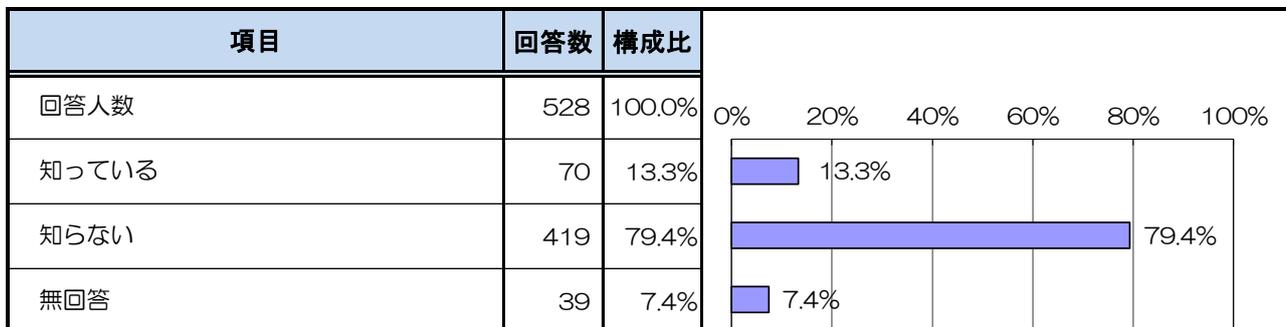
問 23-3 あなたが、自殺したいと思った時に踏みとどまることができた要因は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

自殺を踏みとどまることができた要因については、「その他」を除くと、「書籍・雑誌などの印刷物」「メディア（テレビ・映画など）」「相談」のみに回答が得られた。



問 24 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(1つに○)

自殺に関する相談先を知っているかについては、「知らない」が79.4%、「知っている」が13.3%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「知らない」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「知っている」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
知っている	70	13.3%	33	12.6%	35	13.4%	2	40.0%	53	15.2%	15	8.6%	2	33.3%
知らない	419	79.4%	215	82.4%	201	76.7%	3	60.0%	275	79.0%	140	80.5%	4	66.7%
無回答	39	7.4%	13	5.0%	26	9.9%	0	0.0%	20	5.7%	19	10.9%	0	0.0%

問 25 『鹿児島市無料相談窓口』カードを知っていますか。(1つに○)

『鹿児島市無料相談窓口』カードを知っているかについては、「知らない」が80.7%、「知っている」が10.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男性の「知らない」の割合が女性と比較して高くなっている。

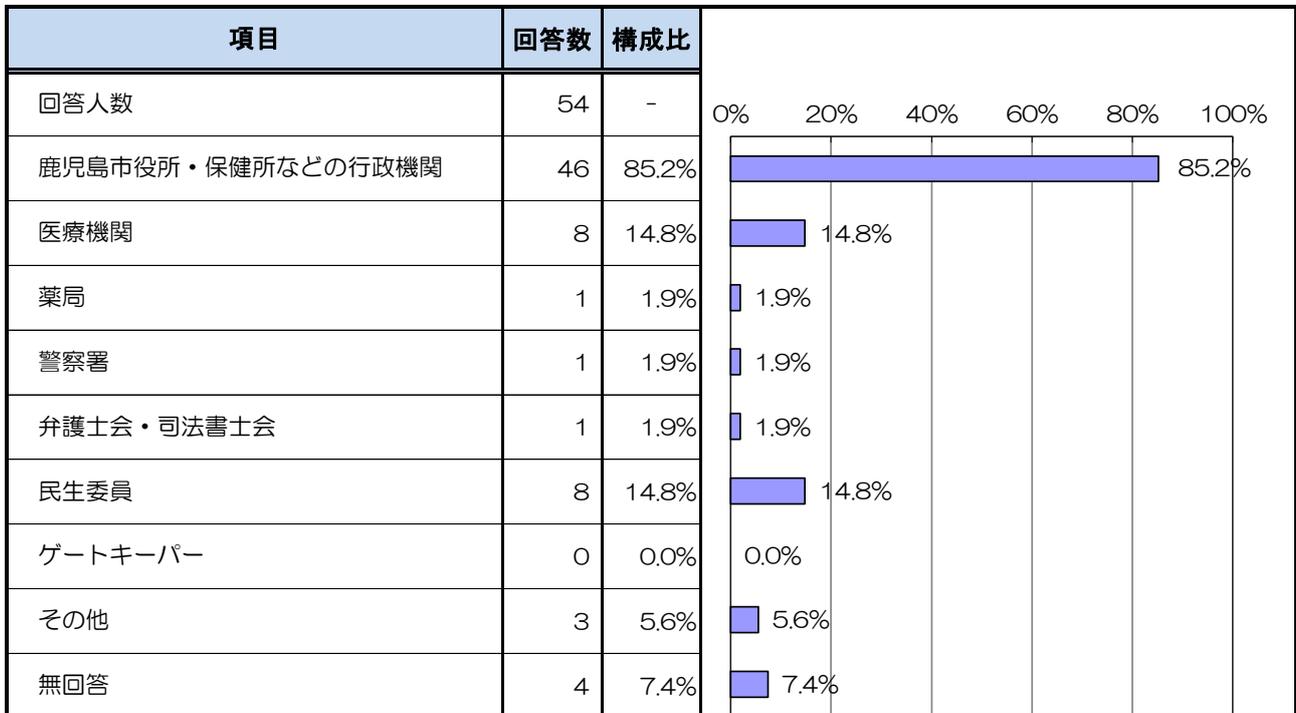
年齢別では、65～74歳の「知っている」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	100.0%	261	100.0%	262	100.0%	5	100.0%	348	100.0%	174	100.0%	6	100.0%
知っている	54	10.2%	21	8.0%	32	12.2%	1	20.0%	39	11.2%	14	8.0%	1	16.7%
知らない	426	80.7%	218	83.5%	204	77.9%	4	80.0%	285	81.9%	137	78.7%	4	66.7%
無回答	48	9.1%	22	8.4%	26	9.9%	0	0.0%	24	6.9%	23	13.2%	1	16.7%

※問 25 で『1. 知っている』とご回答された方にお聞きします。

問 25-1 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（だれから）知りましたか。
（あてはまるものすべてに○）

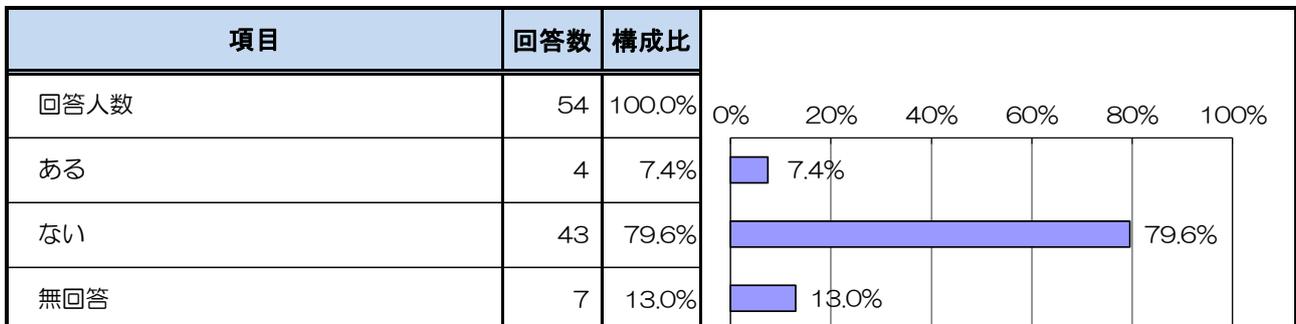
『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（誰から）知ったかについては、「鹿児島市役所・保健所などの行政機関」が 85.2%と最も高く、次いで、「医療機関」「民生委員」の 14.8%の順となっている。



※問 25 で『1. 知っている』とご回答された方にお聞きします。

問 25-2 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがありますか。
（1つに○）

『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがあるかについては、「ない」が 79.6%、「ある」が 7.4%となっている。



※問 25-2 で『1. ある』とご回答された方にお聞きします。

問 25-3 あなたは、『鹿児島市無料相談窓口』カードを使ってどこに相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

『鹿児島市無料相談窓口』カードを使ってどこに相談したかについては、「弁護士会・司法書士会など（借金や生活・法律のこと）」が100.0%と最も高く、次いで、「いのちの電話・保健所など（こころの健康）」の25.0%の順となっている。

項目	回答数	構成比	
回答人数	4	-	0% 20% 40% 60% 80% 100%
いのちの電話・保健所など（こころの健康）	1	25.0%	25.0%
弁護士会・司法書士会など（借金や生活・法律のこと）	4	100.0%	100.0%
サンエールかごしま相談室（配偶者やパートナーとの悩み）	0	0.0%	0.0%
鹿児島労働基準監督署・市雇用相談窓口など（仕事や職場での悩み）	0	0.0%	0.0%
市家庭児童相談（子どもの養育）	0	0.0%	0.0%
鹿児島シルバー110番（高齢者のこと）	0	0.0%	0.0%
市介護保険相談（介護保険相談）	0	0.0%	0.0%
NPO法人いじめ対策プロジェクト・市教育相談室など（ひきこもりや不登校）	0	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%

問 26 あなたが相談したいと思ったとき、どのようなところに相談の場があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

相談しやすい場所については、「市役所・保健所などの公的機関」が 62.3%と最も高く、次いで、「弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関」の 24.8%、「同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場」の 16.3%の順となっている。

項目	回答数	構成比	
回答人数	528	-	0% 20% 40% 60% 80% 100%
駅の構内	22	4.2%	4.2%
ショッピングセンター、デパート	62	11.7%	11.7%
図書館などの文化施設	42	8.0%	8.0%
ハローワーク	16	3.0%	3.0%
スーパーマーケット	43	8.1%	8.1%
市役所・保健所などの公的機関	329	62.3%	62.3%
弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関	131	24.8%	24.8%
同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場	86	16.3%	16.3%
その他	24	4.5%	4.5%
無回答	78	14.8%	14.8%

【高齢者】

【属性別特徴】

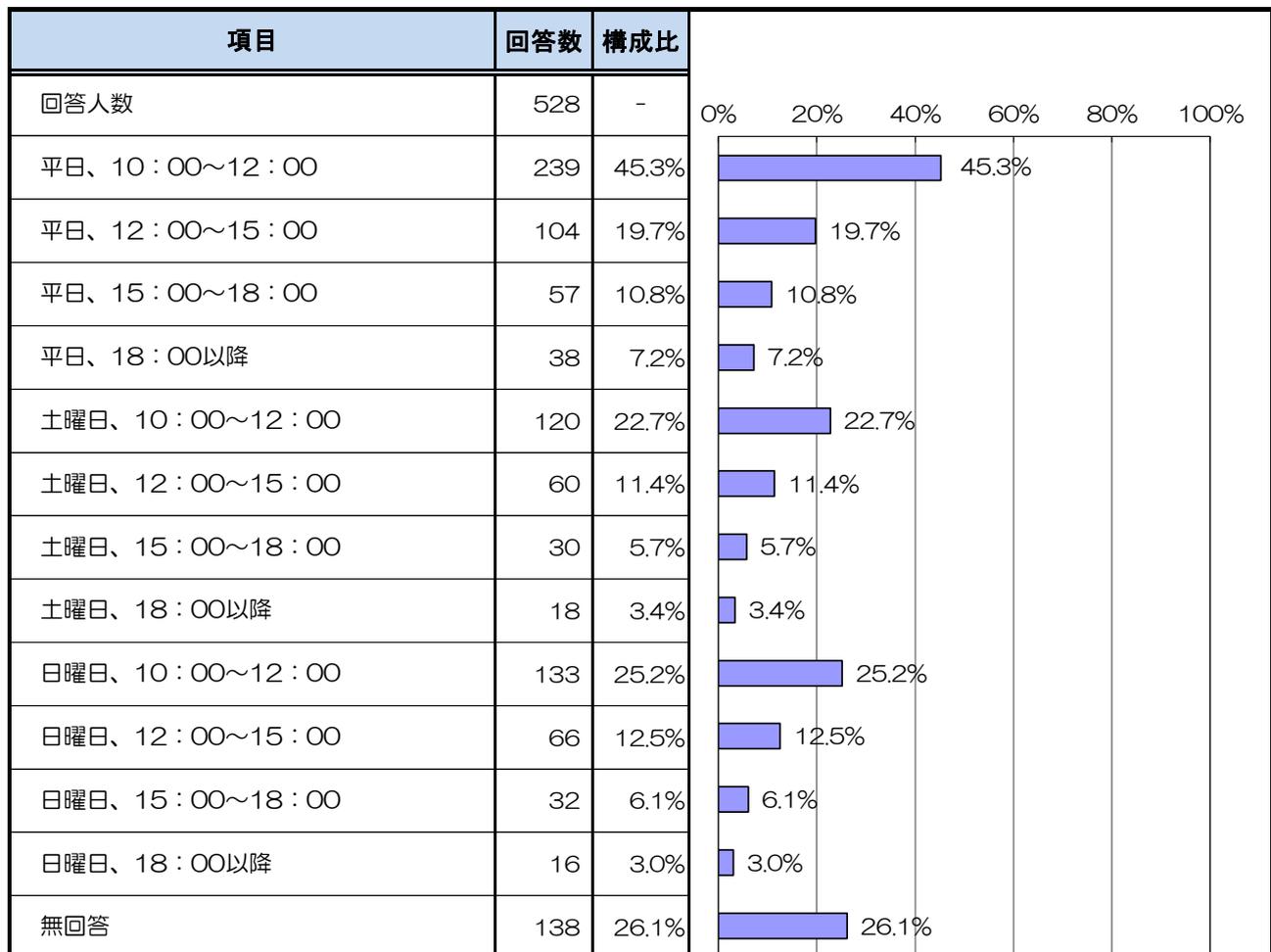
性別では、男性の「市役所・保健所などの公的機関」の割合が女性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の「市役所・保健所などの公的機関」の割合が75歳以上と比較して高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
駅の構内	22	4.2%	8	3.1%	14	5.3%	0	0.0%	20	5.7%	2	1.1%	0	0.0%
ショッピングセンター、デパート	62	11.7%	30	11.5%	32	12.2%	0	0.0%	48	13.8%	14	8.0%	0	0.0%
図書館などの文化施設	42	8.0%	27	10.3%	14	5.3%	1	20.0%	34	9.8%	7	4.0%	1	16.7%
ハローワーク	16	3.0%	8	3.1%	8	3.1%	0	0.0%	13	3.7%	3	1.7%	0	0.0%
スーパーマーケット	43	8.1%	19	7.3%	24	9.2%	0	0.0%	30	8.6%	13	7.5%	0	0.0%
市役所・保健所などの公的機関	329	62.3%	176	67.4%	149	56.9%	4	80.0%	227	65.2%	98	56.3%	4	66.7%
弁護士会・医療機関などの現在開設している相談機関	131	24.8%	69	26.4%	60	22.9%	2	40.0%	89	25.6%	40	23.0%	2	33.3%
同じ悩みを持ちながらも回復を目指す取り組みをしている仲間が集う場	86	16.3%	31	11.9%	54	20.6%	1	20.0%	63	18.1%	22	12.6%	1	16.7%
その他	24	4.5%	11	4.2%	13	5.0%	0	0.0%	16	4.6%	8	4.6%	0	0.0%
無回答	78	14.8%	34	13.0%	43	16.4%	1	20.0%	37	10.6%	39	22.4%	2	33.3%

問 27 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。(希望するもの3つまでに○)

相談しやすい時間帯については、「平日、10：00～12：00」が45.3%と最も高くなっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、女性の「平日、10：00～12：00」の割合が男性と比較して高くなっている。

年齢別では、65～74歳の土曜日・日曜日を希望する割合が75歳以上と比較して高くなっている。

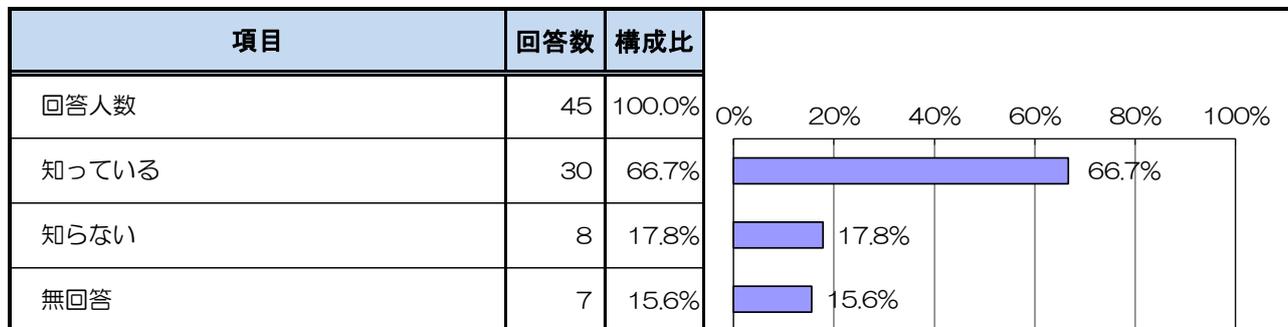
項目	回答人数		性別						年齢					
			男性		女性		無回答		65～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	528	-	261	-	262	-	5	-	348	-	174	-	6	-
平日、10：00～12：00	239	45.3%	107	41.0%	130	49.6%	2	40.0%	160	46.0%	77	44.3%	2	33.3%
平日、12：00～15：00	104	19.7%	45	17.2%	59	22.5%	0	0.0%	71	20.4%	33	19.0%	0	0.0%
平日、15：00～18：00	57	10.8%	29	11.1%	28	10.7%	0	0.0%	37	10.6%	20	11.5%	0	0.0%
平日、18：00以降	38	7.2%	26	10.0%	12	4.6%	0	0.0%	34	9.8%	4	2.3%	0	0.0%
土曜日、10：00～12：00	120	22.7%	57	21.8%	61	23.3%	2	40.0%	90	25.9%	28	16.1%	2	33.3%
土曜日、12：00～15：00	60	11.4%	33	12.6%	26	9.9%	1	20.0%	50	14.4%	9	5.2%	1	16.7%
土曜日、15：00～18：00	30	5.7%	13	5.0%	17	6.5%	0	0.0%	23	6.6%	7	4.0%	0	0.0%
土曜日、18：00以降	18	3.4%	12	4.6%	6	2.3%	0	0.0%	14	4.0%	4	2.3%	0	0.0%
日曜日、10：00～12：00	133	25.2%	65	24.9%	65	24.8%	3	60.0%	101	29.0%	29	16.7%	3	50.0%
日曜日、12：00～15：00	66	12.5%	36	13.8%	29	11.1%	1	20.0%	51	14.7%	14	8.0%	1	16.7%
日曜日、15：00～18：00	32	6.1%	17	6.5%	15	5.7%	0	0.0%	24	6.9%	8	4.6%	0	0.0%
日曜日、18：00以降	16	3.0%	12	4.6%	4	1.5%	0	0.0%	11	3.2%	5	2.9%	0	0.0%
無回答	138	26.1%	73	28.0%	63	24.0%	2	40.0%	77	22.1%	58	33.3%	3	50.0%

※問 28～問 29 は桜島にお住まいの方への質問です。

問 28 「桜島大噴火 避難手順書」についてお伺いします。

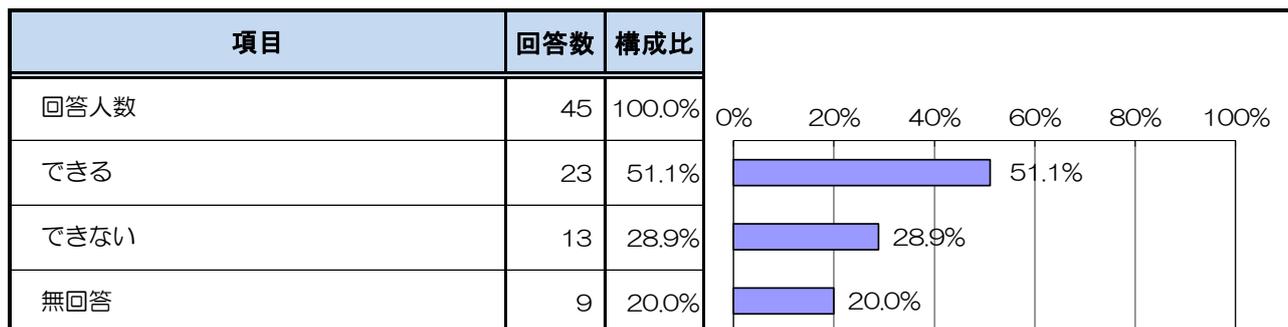
(1) 避難手順書を知っていますか？

「知っている」が66.7%、「知らない」が17.8%となっている。



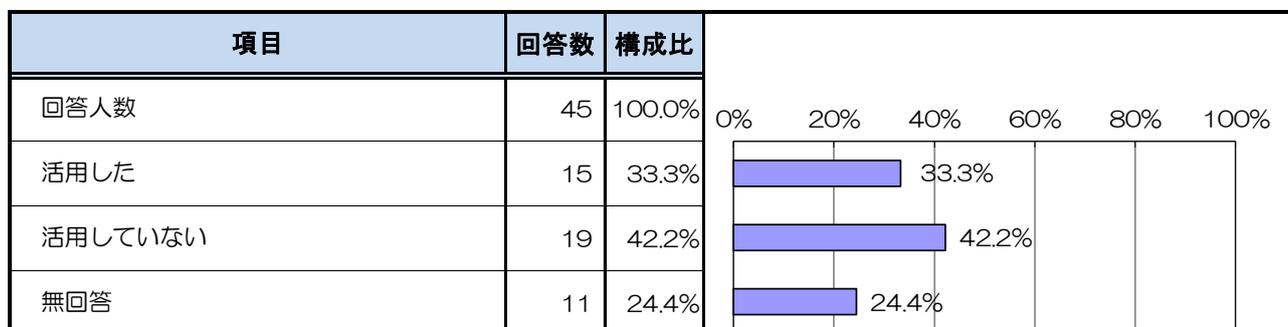
(2) 避難手順書をすぐに確認することはできますか？

「できる」が51.1%、「できない」が28.9%となっている。



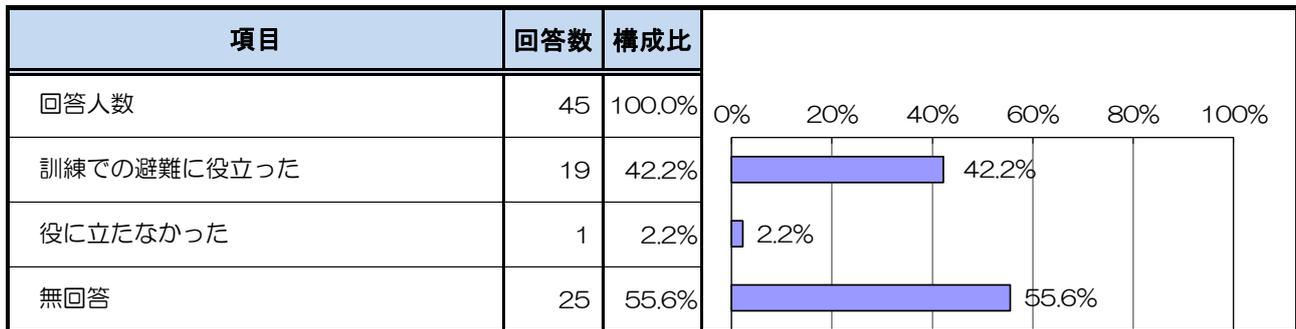
(3) 訓練で避難手順書を活用しましたか？

「活用していない」が42.2%、「活用した」が33.3%となっている。



(4) 避難手順書の内容についてはどうでしたか？

「訓練での避難に役立った」が42.2%、「役に立たなかった」が2.2%となっている。



問 29 「避難用家族カード」についてお伺いします。

(1) 避難用家族カードを知っていますか？

「知っている」が77.8%、「知らない」が8.9%となっている。

